

アリアンロッド リプレイ

ブライトナイト 3

王家の遺産

沢渡 祥子

1.
 1. [はじめに](#)
 2. [登場人物紹介](#)
 1. [シオン・シュタウク](#)
 2. [クリス](#)
 3. [ジール・田中](#)
 4. [レキ・ストランド](#)
 5. [フリーデ](#)
 6. [【オープニングフェイズ】](#)
 3. [SCENE 1 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク（全員登場）](#)
 4. [SCENE 2 シーンプレイヤー：ジール・田中](#)
 5. [SCENE 3 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク](#)
 6. [SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド](#)
 7. [SCENE 5 シーンプレイヤー：クリス](#)
 8. [SCENE 6 シーンプレイヤー：フリーデ](#)
 1. [【ミドルフェイズ】](#)
 9. [SCENE 1 シーンプレイヤー：ジール・田中（全員登場）](#)
 10. [SCENE 2 マスターシーン](#)
 11. [SCENE 3 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク（同行者：フリーデ）](#)
 12. [SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（同行者：ジール・田中）](#)
 13. [SCENE 5 シーンプレイヤー：クリス（全員登場）](#)
 14. [SCENE 6 シーンプレイヤー：レキ（全員登場）](#)
 1. [■戦闘I VS ムシバーサーカー（モブ）5体×2グループ■](#)
 15. [SCENE 7 シーンプレイヤー：ジール・田中（全員登場）](#)
 1. [■戦闘II VS ムシバーサーカー（モブ）5体×4グループ■](#)
 16. [SCENE 8 シーンプレイヤー：クリス（全員登場）](#)
 1. [■戦闘III VS ムシバーサーカー（モブ）5体×5グループ■](#)
 17. [SCENE 9 シーンプレイヤー：フリーデ（全員登場）](#)
 1. [【クライマックスフェイズ】](#)
 18. [SCENE 1 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク（全員登場）](#)
 1. [■戦闘IV VS 戦闘用搭載機1体、ムシバーサーカー（モブ）5体×3グループ■](#)
 2. [【エンディングフェイズ】](#)
 19. [SCENE 1 シーンプレイヤー：シオン](#)
 20. [SCENE 2 シーンプレイヤー：ジール・田中](#)

21. SCENE 3 シーンプレイヤー：クリス
22. SCENE 4 シーンプレイヤー：フリーデ
23. SCENE 5 シーンプレイヤー：レキ・ストランド

はじめに

この本は、テーブルトークRPGのリプレイです。システムは「アルシャード」。

「テーブルトークRPG」及び「リプレイ」に関する説明は、ここでは省きます。今回は6人で遊んでおり、5人がそれぞれ自分の「キャラクター」を操作し、一人が物語の進行役（ゲームマスター、GM）を担っています。

「アルシャード」は、2002年にエンターブレインから出版された日本産のTRPGシステムです。ファンタジー世界での冒険を扱っており、2005年に改訂版「アルシャードff」が出版されています。

プレイヤーは「神々の力を受け継いだ英雄」となり、「奈落」という宇宙を蝕む負の勢力との戦いを繰り広げます。

TRPGの中でも比較的演出色が強いシステムで、プレイヤーには「状況に応じた的確な判断と対抗策」よりも、「その場に合う格好いい台詞とリアクション」が求められます。

GMの進め方も展開重視なところがあり、プレイヤーが何をやってもさらわれるヒロインはさらわれるし、つかまるシーンはつかまります。作戦内容にかかわらず突入するシーンでは突入しますし、成功も失敗も話の流れ優先です。

——そんな「お約束」をある意味楽しみながら自キャラの演出に励むのが、このシステムの特徴的なところかと。

そのため、これまでのTRPGリプレイとは少々毛色が違うものになっているかと思います。ご了承ください。

今回は公式キャンペーンシナリオ「ブライトナイト」を使用しています。

ファンタジー世界の英雄譚ですが、ロボットものの色合いが強く——はっきり言って、ガンダムから採用したとしか思えないネタが満載です。

では、今回のおはなしへ——。

登場人物紹介

シオン・シュタウク



「僕が君を守る盾になり、剣になるよ」

「切り拓きます、ついてきてください！」

男／人間／15歳 主人公・人型甲冑アームドギアの乗り手

肌／黄 髪／黒 瞳／黒 身長：163cm

シャードの形：曲玉型のイヤリング

【レベルとライフパス】

パンツァーリッター1/ファイター2→5

特徴：神の恩恵・美形（異性の反応がきわめてよい）

クエスト：運命への反逆

【プロフィール】

セッション開始時点ではまだクエスターになっていなかった島の少年。息子への関心の薄い発明家の父親と、修理したヴァルキリーと住んでいた。

父の発明した『アームドギア』に乗り込み、プリムローズと協力して帝国と戦う主人公。

クリス



「声が聞こえる……！」

「みんな、一緒に帰って来れたらよかったのに」

女／人間／16歳 ヒロイン・シャードの巫女

瞳／青 髪／金 肌／肌 身長：160cm

シャードの形：緑の八角形、ケインに付属

【レベルとライフパス】

オラクル1→3/ホワイトメイジ1/ブラックマジシャン1

特徴：美形（異性の反応がきわめてよい）

クエスト：失われた記憶（出自／喪失）

【プロフィール】

本キャンペーンのヒロイン。出自ライフパスはもちろん「神の恩寵（特徴：美人）」。記憶

を失っている。シャードの意思を形で受け取れる特殊な才能を持つ巫女。

ジール・田中



「彼のやったことがムダにならないうちに」

「そういう話もいいが、我々は今作戦中だぞ」

男／人間／26歳 はたらくニンジャ

肌／イエロー 髪／ブラック 瞳／ブラウン 身長：174cm

シャードの形：黒い手裏剣

【レベルとライフパス】

エージェント1/スカウト1/ニンジャ1→3

特徴：質実剛健（耐久力+2）

クエスト：敵討ち

【プロフィール】

どんな時でも名刺を出して忘れず挨拶、ゼネラル・マテリアル社に勤務する特殊職員。本社の指令によりプリムローズの活動に協力している。スーツ姿にニンジャ頭巾が標準装備。口癖は「ニンジャですから！」

レキ・ストランド



「帝国の非道を見ればわかるだろう。この先に人の未来はない」

「シオン、戦いとはこうするのだ！」

男／人間／33歳 復興を誓う王国の元騎士

肌／焦茶 髪／黒 肌／肌色 身長：185cm

シャードの形：虹色の八角柱のリング

【レベルとライフパス】

サムライ1→2/ファイター2→3/ハンター1

特徴：質実剛健（耐久力+2）

クエスト：王女の探求

【プロフィール】

十数年前に滅びたウェストリ王国に仕えていた騎士。祖国の復興のため、反乱組織プリムローズに身を投じる。行方不明の王女の行方を追っている。帝国将校“灼熱の”アインを仇と狙っている。

フリーデ



「わたしは今の状態で何かできるでしょうか」

「わたしには、記憶の欠損以外にも故障箇所があるのかもしれませんが」

女性型／ヴァルキリー／年齢不明 戦うお手伝いさん

肌／白 髪／銀 瞳／水色 身長：164センチ

シャードの形：水色の涙滴型

【レベルとライフパス】

ヴァルキリー2／ハンター2／ホワイトメイジ1

特徴：第六感（セッション中に1回、【知覚】判定の振り直し）

クエスト：マーカスへの恩返し

コネクション：マーカス・シュタウク（主人）

【プロフィール】

2年前に主人公の父親マーカスによって修理されたヴァルキリー。記憶が欠損しており、再稼働する前のことを覚えていない。マーカスが亡くなった今はシオンを主として仕えている。

【オープニングフェイズ】

オープニングフェイズは録音事故発生が発生したため、

ジール・田中とシオンの導入しかリプレイに残せませんでした(>_<)ゝ

3名の導入はハンドアウトをそのまま引用という形にさせていただきます.....スイマセン。

SCENE 1 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク（全員登場）

- GM** : 皆さんはホワイトスネイクの会議室にいます。で、指導者であるハンスさんが通信越しに今回の作戦を説明するわけです。
「プリムローズは近々、帝国軍に対して大規模な作戦を行う。それに先立ち、戦力増強のために諸君らにはウェストリ廃王国の王都付近にある遺跡ミーティアに入り、王国に眠る遺産を手に入れてもらう」（笑）
- 田中** : ええー！
- シオン** : 要は戦力増強のためにドロボウをしてこいということですね。
- GM** : 「ドロボウだろうが何だろうが、戦力増強のためには厭わない」——帝国を倒すためには手段を恨んではいられないと。それが今回の作戦だと説明します。
- フリーデ** : いつもながらそれは『作戦』なのか『目的』なのか.....。
- GM** : そんなもんです、反乱軍なんて。「現在、ウェストリ廃王国王都ハイ・ウェストリの半径約70km範囲は、王国を滅ぼした元凶であるバーサーカーが闊歩している」
- シオン** : 直径でいうと140km、面積でいうと70×70×3.14平方km。
- GM** : 「奴らは全ての生命体を殲滅している。これを何とかしないと王国の遺産はおろか近寄ることさえかなわない。ハンター達が個人で遺産を奪取しようと試みているが、その目的は達していない。では我々はどうやって入るかという.....プリムローズがG=M社に大きな借りを作ってまで、アームドギアを買い取った理由はここにある」
- シオン** : 買い取ったって、どこに料金が払われたんだろう？
- 田中** : 親父のところ。
- GM** : そのお金は全てアームドギアに注ぎ込まれたのかもしれないし、金じゃないかも。ちなみにあなたに届いたわけではない。
- フリーデ** : 料金はクリスの情報とか。それならもう支払いは終わっている。
- GM** : 「実はマークスは、アームドギアの原型にバーサーカーを使っている」（笑）
- シオン** : おい！
- クリス** : どうやって手に入れたんだ、バーサーカー！
- GM** : 「マークスはハイ・ウェストリの科学者だった。ミーティア遺跡の研究もしており、情報も得ていたのだろう。アームドギアはバーサーカーシステムを原型としており、バーサーカーの機能を妨害できる。つまり君たちがアームドギアと行動すれば、バーサーカーから攻撃を受けずに潜入できる」
- シオン** : あの、今の戦術を聞けば聞くほど思うんですが、俺今回、ちょこーん.....。
- 田中** : アイテムだから。
- GM** : 「アームドギアの妨害範囲は限られており、大部隊で行動することはできない。少数精鋭で行うしかない上に、アームドギアを操縦者と仲が良く.....」
- 田中** : 前回一緒に行動していたメンバーを、ということですね。「この資料にクリスさんが入っているのですが.....」みたいなことを適当に言ってみよう。
- クリス** : ほほほほほほほほ。
- GM** : 「彼女は大切な鍵を持っているという話だ」
- シオン** : じゃ、鍵を渡してもらえば？
- クリス** : 鍵。（素の口調で）え、何、これですか。指輪をテーブルの上に置いたりとかして。
- フリーデ** : ヒロインモード、ヒロインモード！
- シオン** : ヒロイン、ヒロイン！
- クリス** : うわ、そうだった、ヒロインモード！
- GM** : 「私もゲイルからしか聞いていなが、その指輪かもしれない」
- フリーデ** : ちなみに、ゲイルさんはこの場にはいるんですか？
- GM** : ゲイルさんは療養中でいません。《イドウン》（ホワイトメイジの加護。キャラクターを復活させる）で復活はしていますが、重傷人には変わりないんで。

フリーデ：もう一発《イドウン》かけたら回復しないかなー？

GM：回復しても同行はしないでしょうね、奴は海の男だから。あと、「今回の作戦にはゼネラルマテリアル社からもう1人派遣してもらおうことになっている。ミーティア遺跡付近の土地の情報に詳しい人物だ。名はジール・ベルクといったか。彼が情報を提供してくれるだろう」

シオン：今回はWジールですね。

田中：そのキャラクターがどういう人かいまいちよくわかっていない。

GM：それは次のシーンで語ります。G=M社でも『双頭竜』と呼ばれる彼らは、分野は違えどそれぞれが卓越した技術を持っていると評判です。

シオン：あのすいません、どこのヤンキーですか。（笑）

田中：一応、「奴ですか」と適当に言っておこう。

シオン：ほんとかよー。

田中：しょうがねえじゃん、そう言うなよ。（笑）

GM：「君たちに期待しているよ。今後の戦局を左右する重大な作戦だ。是非とも頼むよ」と言って消える。ピーン。

シオン：あ、……妹回収していけって言おうと思ったけれど、俺、あの兄弟関係知らなかった。

クリス：ソフィー・ウィルマー？（プリムローズのリーダーの妹。前話登場）

GM：「それぞれ持ち場に戻って、作戦決行の日まで体を休めてくれ。最後にシオン君、君は大切なアームドギアの整備でもしていてくれたまえ」と。

田中：大切なアイテム。（笑）

シオン：ごめん、お願いだからそれ言わないで……。『最後にシオン君』って言われた瞬間に、「ああそうですね、僕じゃなくってアームドギア重要でしたね」って心の中で思ったんで。

田中：でもアームドギアを扱えるのは君しかしない。

GM：そう。シートセッティングから全て彼仕様。彼がやらないと動かないという。

フリーデ：……彼しか動かさないけど動かせれば誰でもいい、と。

SCENE 2 シーンプレイヤー：ジール・田中

◇ジール・田中 エージェント1／ニンジャ3／スカウト1 26歳・人間・男
コネクション：ジール・ベルク（関係：友人）
ゼネラルマテリアル社（G=M社）に勤務する特殊職員。ニンジャなサラリーマン。

- GM** : あなたは作戦会議終了後、自室に戻ります。戻る途中に見たことのある人物が立っています。ジール・ベルクですね。
- 田中** : どんな感じの人ですか。
- GM** : (シナリオの挿絵を見せながら) こんな感じの人です。
- シオン** : やべ、こいつ絶対なんか考えてる。
- クリス** : いい人げだ。受けだな。(注：意味がわからない人はわからないままの方がいいと思います.....) (笑)
- フリーデ** : しゃべりださなきゃどちらともいえないよ。(笑)
- GM** : 「田中、元気にしていたか」
- 田中** : 「ジール・ベルクか」
- GM** : 「今回、ミーティア遺跡に行く任務についたんだってな」
- 田中** : 「ああ」ってとりあえず言うけど。
- GM** : 「相変わらず愛想がないな。そんなんじゃ彼女もできないだろう？」
- 田中** : そう言われると濁いた笑いを。「仕事に彼女はいらないよ」とか適当なこと言っておこ。
- GM** : 「そんなこと言うなよ。これでもG=M社内ではお前の人気は悪くないんだぜ。エレンもお前のことを気にしていたぞ」
- 田中** : え、エレン？ また新キャラが。
- GM** : あなたは知っています。エレン・ウィラーはジール・ベルクの恋人ですね。近々2人は結婚式を.....。(笑)
- シオン** : やべー！
- フリーデ** : ひどいよ、登場5分で死亡フラグ立てるマスターがいますか！？
- GM** : あんたらこそフラグとか言うなー！
- 田中** : 今、俺、言わないように心がけていたのにー！
- クリス** : 恋人の名前が出た時点でやばいと思ったんだけど、『近々結婚』っていったらもう確定だよな。
- 田中** : 「この任務が終わったら、ちゃんとお前らの式には出るよ」
- GM** : 「お互い頑張ろう。またいつものお前の力を見せてくれ。頼りにしているぞ」
- 田中** : 「お前こそ頑張れよ」と適当なことをさわやかっぽく言っておこう。
- GM** : あなたとジールは古き友人で、昔からの切磋琢磨しあった仲間です。
- シオン** : 実は田中さんの方がエレンとは古いなじみだったら嫌だよな。
- GM** : そういうわけではありません、同時期に知り合いました。推測に任せますが、このシナリオからいえば田中さんもそれなりの想いはあったんじゃないでしょうか。(笑)
- フリーデ** : ヤンとラップとジェシカ。(by『銀河英雄伝説』。主人公ヤンとラップは士官学校時代からの親友で、ジェシカはラップの婚約者。ラップは登場後間もなく死亡)
- レキ** : それは3人とも死ななければ。田中さんはちょっと遅れて。
- GM** : そんなところでクエストを渡します。『作戦終了後、エレンに会う』。(笑)
- シオン** : やべー！ それはあの.....。(笑)
- フリーデ** : 今のうちに何か受け取っておいた方がいいんじゃないですか？
- 田中** : 何を言っているんですか、ただ会うだけじゃないですか！

SCENE 3 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク

◇シオン・シュタウク（パンツァーリッター1／ファイター5）15歳・人間・男
コネクション：ソフィー・ウィルマー（関係：同志）
本キャンペーンの主人公。父の遺作となったアームドギアに乗り込み、反帝国活動中。

シオン : また俺？

GM : そう。ちなみに他のプレイヤーキャラは登場してはいけません。

シオン : ちょっと待ってくれ、今プレイヤーからキャラクターに戻るから。

レキ : 頑張れシオンー！

シオン : 頑張る。——OK、入った。作戦前に自分の愛機を整備しています。僕の大事な大事な.....。

フリーデ : 僕より大事な。

クリス : というより僕の存在意義の。

田中 : コソっとしたもの、ここにしか隠すところがないから隠しているんじゃないですか？

シオン : 何言っているんですか、コソっとしたものはとっくに田中さんの枕の下ですよ。

GM : そんなことをしていると、後ろから「今、大丈夫ですか？」と声が聞こえますね。ソフィー・ウィルマーです。（笑）

レキ : 完全に当て馬ですね。

クリス : ちくしょー！

シオン : 「手は離せないですが、いいですよ」

GM : 「今回は、ミーティアの遺跡に行くそうですね」

シオン : 「みたいですね。どんなところかよくわかりませんが、これがあれば大丈夫らしいんで.....」

GM : 「はい、兄からも少し話を聞きました」

シオン : 「へえ、物知りな方なんですね、お兄さんは」

GM : そうすると「えっ」って表情をした後で、笑いながら「そうなんですよ。——兄からは、この機械に乗っていれば無事だと聞いています」

シオン : 「いつも作戦の時は無事だって言われて生きて帰ってきますから。っていうか、最近、この中にいることって多いなあ。電子レンジ置いちゃおうかなあ」

GM : 申し訳なさそうな表情で「ごめんなさい。シャードが紡いだ運命とはいえ、あなた達に迷惑をかけてばかりですね」

シオン : 「自分で選んでここに入ったんですから大丈夫ですよ。（小声で）.....父さんに売られたんですけど.....」（笑）

クリス : 暗いぞ暗いぞ、パズー路線はどこいったー！

シオン : だって、パズー路線に行くにはあまりにも父さんがいい加減な人だから。父さん、絶対スチームボーイ（2004年に公開されたアニメ映画。監督大友克洋）のあの父さんに近いし。そのうち「これが科学の力だ！」って言い出すから。（主人公の父は半身機械で登場するマッドサイエンティスト）。（笑）（笑）

GM : 「私も力になればいいんですけど.....」と言って口をつぐみますね。

シオン : 「問題ないですよ。仲間もいっぱいいますし、一人でも無事を祈ってくれる人がいればそれだけで安心できます」

GM : 「私はここから離れることは出来ませんが、あなたの無事を祈っています。必ず帰ってきてくださいね、シオンさん」

シオン : 「ありがとうございます。約束します、帰ってきますよ」

田中 : なんだ、このらぶらぶモードは！？（笑）

GM : あなたにクエストを渡します。『作戦を成功させる』

シオン : うわ、楽っ。

SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド

◇レキ・ストランド（サムライ2／ファイター3／ハンター1） 33歳・人間・男
コネクション：ハンス・ウィルマー（関係：ビジネス）
反乱組織プリムローズに身を置く戦士。10年前に滅んだウェストリ王国の元騎士。

すいません、ここから録音できていませんでした……。
ハンドアウトは以下の通り。

ハンスから新しい仕事を依頼される
その内容を聞いたとき君は自分の耳を疑った　しかし、君は次の瞬間には笑みを浮かべていた『腕
を試すには丁度良い』
それに、ハンスは切れる男だ
何か必ず策があるのだろう
それを信じて剣を振るうのみだ

SCENE 5 シーンプレイヤー：クリス

◇クリス（オラクル3／ホワイトメイジ1／ブラックマジシャン1）

16歳・人間・女

コネクション：ゲイル・ヴァルサー（関係：恩人）

本キャンペーンのヒロイン。出自ライフパスはもちろん「神の恩寵（特徴：美人）」。

ここも録音できませんでした。以下ハンドアウト。

ゲイルは君をウェストリ王国の第一王位継承者だという 指輪はその証とのことだ

マーカスは、その指輪が君のものであると言って託してきた

すべてはウェストリに行けばはっきりすると、シャードは君に語り掛けてくる

ウェストリに行こう

君はそう決意した

SCENE 6 シーンプレイヤー：フリーデ

◇フリーデ（ヴァルキリー2／ハンター2／ホワイトメイジ1）

ヴァルキリー・女性型・製造年不明

コネクション：謎のヴァルキリー（関係：忘却）

主人公と主人公の父親によって修理された。記憶喪失ヴァルキリー。

録音失敗部分ラスト。この後、録音ランプが消えていることに気づきました。

以下はハンドアウトです。以後、こんなことのないよう精進いたします.....m(__)m

マーカスに修理される前の記憶はほとんどが消失してしまっていた

以前は何も不都合はなかったが『ウエストリ』というワードを聞く度に、君の頭脳は検索を始める

しかし、検索結果はいつも何も見つからない.....

君にはそれが気になって仕方がなかった

幾度目の検索だろうか...断片的にだが、情報が引き出された

【ミドルフェイズ】

SCENE 1 シーンプレイヤー：ジール・田中（全員登場）

- シオン** : (自分に対して)ちゃんとヒーローモードに入らないと。
- クリス** : ヒロインモード、ヒロインモード。
- GM** : あなた方がいるのはバーサーカーの勢力範囲内70キロ地点ぎりぎり、これから踏み込もうというところです。君の横には水先案内人のジール・ベルク。あなた方には『田中』と『ベルク』で通っています。
- シオン** : 田中汁、田中汁一。
- 田中** : 演出を進めるために、一応「ここか」とかって適当なことを言っておこう。
- GM** : 「そう、ここから先は命あるものは全て死を与えられると言われる場所だ」
- 田中** : ちらっと白いマシンを見て「それはあれか、本当に防げるのだろうか？」って言うけど。
- GM** : 「その機能が発揮されなければ、この作戦そのものが決行できないことになる」
- 田中** : 「では、白い奴とあの少年に全てを託すしかないのか」
- シオン** : 白い奴、錆が浮かんできたので白から象牙色になってきました。
- GM** : 「なあに、話を聞けば開発者はしっかりとした人物だったらしい。それにお前と俺がいればこの作戦もうまくいくさ」——皆さん、【知覚】チェックしてください。難易度は11で。
- 田中** : (ころころ) 16。
- フリーデ** : (ころころ) 12。NPCジールは？
- GM** : NPCジールは気づいてて、ジール・田中に目配せします。
- 田中** : こっちも『わかっている』という顔をする。
- GM** : 帝国兵達が一個中隊ほどの戦力を整えて、ミーティア遺跡に突入するところらしいです。ゲバルトギアも何機かいます。
- 田中** : 「とりあえず隠れるぞ」と言っておこう。
- クリス** : 「どうしたんですか？」って感じで。(←判定に失敗した)
- GM** : 「ここにいる連中を全員、物陰に隠れさせるしかないな」行動が早かったおかげでみなさん達は敵には気づかれませんでした。物陰から見る形になるんでしょうかね。
- 田中** : (クリスに)ちなみに何か言わないんですか。『あそこに兄さんは』とか。
- クリス** : 「あそこに兄さんは……いないわよね」って感じで。
- レキ** : しばらく見送るわけですね。「よく見ている。バーサーカーの脅威がこれから目の当たりになる」
- シオン** : 1個中隊がどのくらい保つんかなー、みたいな。(ストップウォッチを構える仕草をして) ぴっ。
- 田中** : 少年がそんなことやるんですか。
- GM** : 5分ぐらい後に、激しい金属同士のぶつかり合いみたいな音が聞こえてきます。
- シオン** : ぎよりぎよりぎよりぎよりぎより。
- フリーデ** : あ、直接は見えないんですか。
- 田中** : 暗闇の中から光と音だけが。
- フリーデ** : 今って時間って……？
- 田中** : いや、わかんないけど。昼なんかなー。
- GM** : 1個中隊ですからね、当然ながら相当な兵力です。
- フリーデ** : 1個中隊ってどのくらいをいうんですか？
- クリス** : 私もよくわからない。
- レキ** : ガンダムでいうとザク (by『機動戦士ガンダム』ジオン軍の初期の実戦型モビルスーツMS-05) 3機が1個小隊です。中隊になるとそれが3つ。だから中隊はザク9体。運搬する車両等々を合わせるとムサイ (by『機動戦士ガンダム』ジオン軍の軽巡洋艦。

モビルスーツ5機を格納整備できる)に4~5機しか乗らないんで、ムサイ級(by『機動戦士ガンダム』ジオン軍ではムサイと同型の艦船を「ムサイ級軽巡洋艦」と称した)が2機。

クリス : なんかすげーわかるようなわからないような。

レキ : 戦艦が確実に2台はついて、で、そこに満杯の兵士が乗っているぐらいの戦力。

GM : 前回の海上決戦ほどはいませんが、第一話での兵力よりも多いくらいでしょうか。5分くらい経ったら戦闘がはじまりますが、更に5分経たないうちに音は鳴らなくなります。

シオン : ピッ。――1個中隊、8分34秒56。

GM : その後、エヴァの暴走みたいな声が聞こえます。『オオオオオオン』みたいな。

クリス : 「何この声は？」って感じですね。

GM : レキさん、【理知】で記憶を辿るって感じで。あなたは少なくとも元騎士なんで、8以上だったらOKなんで。

レキ : 「こ……この声は」(ころころ)9。

GM : はい、バーサーカーの声です。

レキ : 「バーサーカーの雄叫びだ」

GM : 「……どうやら終わったようだな」

シオン : 提案です。バーサーカー機能がちゃんと機能しなかった場合のことがありますんで、私がちょっと先行で行った方がいいんじゃないでしょうか？

田中 : ちょっとだけ行って、おーいみんな大丈夫だぞー、みんなこい、みたいな？

フリーデ : いや、ちょっと行って戻ってきて、改めてさあ行こう、じゃないかな。

シオン : 5分以上はバーサーカーが攻撃的な行動をしないことを確認しないと、みんなで行ってダメでしたってなったら……。私はそれこそ走って帰ってあげればいいですが。

レキ : ダメな場合を想定するんであれば、みんなで守りながらちょっとずつ後退していかないと。一機で行ってやられたら……。

GM : バーサーカーをなめない方がいいです。仮にシステムが起動しないのであれば、全員の力を集結させて撤退を計るのが一番の生存方法だろうと。

フリーデ : でも今いる場所は安全なんでしょう？ じゃ、試しにシオンだけ危険域に10分いて、何かあったらすぐ帰ってくるというのは別に問題ないと思うんですけど。

シオン : そっちの方が安全だと俺は思う。危険だったら走って逃げてくれるし。

フリーデ : それでアームドギアの機能が働いてないことが証明できたら『今回の作戦は前提が間違っていました』ってそのまま引き返せばいいんだし。危険は少ないんじゃないかな。

田中 : シーフを先に行かせる理論ですな。

GM : そうすると、「だが、君を一人で危険にさらすことになってしまう」

フリーデ : 「問題ありません、わたしが同行します。何かありましたらわたしが盾になります」

シオン : というわけで、今回は早く動くことが重要なのでプロテクター(注: 防御力はありませんが、着用中は行動力-4)を脱いでいこう。

レキ : まあ、戦闘をしにいくわけじゃないからね。

GM : 田中さん、ベルクが聞いてきますね。「彼らだけで大丈夫なのか？」

田中 : 本人は気づかないんだけど大きい声で「今回は彼に任せよう。私は今回彼を信じることにした」と言おう。

GM : 「お前がそこまで言うならその言葉を信じよう。ではシオン君、すまないが行ってくれるか」

シオン : 「じゃ、フリーデ。アームドギアの肩に乗っておいてくれ」

フリーデ : 「わかりました。シオン様、くれぐれも無理はしないでください」

シオン : 「フリーデ、昔から逃げ足は早かったらろう？」

フリーデ：「その点は信用しておりますが、シオン様は暴走するスピードも一番でしたから」
クリス：「……ここでヒロインとしては「私も行きます」と言った方がいいんだろうかと考えている。」
シオン：「じゃ、行ってきますね」ってアームドギアで出る時の最中で？
クリス：「まさに出ようとしたその瞬間に。――演出つけちゃうぞー。」
シオン：「どうぞー。」
クリス：「シオン君、待って！」と乗りかけたシオン君に手を伸ばします。「私も連れて行ってください」と。
シオン：「危ないですよ？」
クリス：「いいんです！ 何かあったら……」えーと……。 (しばらく考えてから) 「怪我をしたら治す人が必要でしょう」……今日はなんか、最初からイッパイイッパイだな。
シオン：パターンとしては、アームドギアのコクピットの後ろに隠れているっていうのもありますよ。

ここで「ヒロインこっそり忍び込み」「ヒロインらしく宣言して同行」という2つの選択肢のどちらかがいいか、という話になりました。

(以下、クリスの脳内会議)

クリス：「デカさを考えたら、こっそり入るのって無理っぽそうな気がするのね。みんな一緒にいるでしょう。で、みんなの前で乗り込むんでしょう？」
フリーデ：「そこは大丈夫、シャードの導きで。」
シオン：「私が提案した瞬間に彼女に話を振っていないから、その間に乗り込んでいたと言われても可能です。ヒロインの行動力を示す、というイベントでOKですし。」
田中：「宮崎ヒロインですから。こー、柵の上すたたたた、みたいな。(笑)」
クリス：「ああ怖かった」って感じで？
シオン：「正当派ヒロインとして「連れて行ってください」ってロールプレイをちゃんとして乗ってもいいし。」
フリーデ：「どっちでもOKそうですね。でもアームドギアのコクピットって余裕あるんですか？ ゲバルトギアの絵を見ると、手足が外から見えているって感じだけど。」
GM：「ゲバルトギアはパワードスーツですが、アームドギアは収納タイプです。わかりやすくいえば、パトレイバーのイングラム (by『機動警察パトレイバー』体高8m) とか。今までの規格とは違うと考えてください。」
シオン：「いふなれば、ボール (by『機動戦士ガンダム』連邦軍の支援機RB-79。作業用ポッドに手と武器をつけた感じ) の中にジム (by『機動戦士ガンダム』連邦軍の後期主力兵器RGM-79) がいるんです。」
田中：「つれてってくださって乗り込むのか、それともこっそりと乗り込むのか。」
シオン：「いや今回はちょっと……。」
フリーデ：「ああ、美しいロールの果てに連れて行くの？ (笑)」
田中：「そうそう、そういう演出が必要なのではないかという感じなんですよ。」
フリーデ：「でも乗った後の主人公とのやりとりもおいしいですよ。」
クリス：「――じゃ、ツリッ(・)。」
シオン：「じゃ、俺は乗り込んだ時に気づかない鈍感派で。」
クリス：「なんかあった時に「痛っ」っていう声が後ろから聞こえてきて。(笑)」
シオン：「できれば5分ぐらい進んでから気づくということで。」

話し合いの結果、クリスは「アームドギアにこっそり忍び込む」ことに決定。

SCENE 2 マスターシーン

GM : バーサーカーに撃破されるゲバルトギアのシーンからです。1個中隊のゲバルトギアが全く相手にされず次々と屠られている様子を、攻撃が届かないところから見ている2人の人物がいます。

最後のゲバルトギアが破壊された後、一人の男が呟きます。「全く歯が立たないとはどういうことだ。アイン、一体どうする気だ！」隣にいた男——アインと呼ばれた男ですね——は口を開きます。「兵の練度の差です、問題はありません。あの程度の戦闘能力ならば私に任せていただければ必ずご期待に沿えましょう」

もう片方のヒゲを生やした高貴そうな男が「そ、そうか。ならばお前に任せたぞ。そして指輪の在処はわかったか」と言います。アインは「そちらも問題はありません。あなたはただ待っていればよろしいのです」もう1人の人物が「そうか、わかった。この件は全てお前に任せる」と言います。

そして、破壊されたゲバルトギアとそう遠くない場所から新たに白い機体が現れるのが見えます。

シオン : がちゃこん、がちゃこん。

GM : 「あれは一体何だ？ 例の“白いやつ”か」——それには答えないで、アインは心の中で呟きます。「意外と早かったな、“白いやつ”。今日はせいぜい生き抜くことだ。指輪も大事に持っておくがいい」そして、「そうです。彼らには道を築いてもらいましょう。このままではここも危険です。さあ、下がりました、王子」と、去っていきます。

SCENE 3 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク（同行者：フリーデ）

- GM** : シーンプレイヤー、シオン君。一緒に行動しているフリーデも出てください。クリスは判定はいりませんので好きなところでどうぞ。
- シオン** : 「行くよ、フリーデ」
- フリーデ** : 「はい、シオン様」
- GM** : ちなみに残り2人、出れません。
- 田中** : 出れねー！
- シオン** : じゃ、（砂をかき寄せる仕草をしつつ）男3人で棒倒しを。（笑）
- レキ** : いや、世間話でしょう。
- シオン** : 5分くらい進んで、てふてふてふ。
- フリーデ** : 反応はありますか？
- GM** : しばらく進むと、さっき戦闘があったであろう区域の手前の方に着きます。
- シオン** : ハッチを開けて、「そろそろ危険だね、フリーデ」
- フリーデ** : 「どうされますか？ しばらくここで立ち止まってみますか」
- GM** : フリーデさん、【知覚】チェックをよろしくお願いします。難易度はそうですね……。
- フリーデ** : （ころころ）言わなくていいです、1ゾロですんで。（笑）
- GM** : じゃ、シオン君もしてもらいましょうか。フリーデさんより難しくなって12以下で。
- シオン** : （ころころ）無理です。
- GM** : しょうがないですね、見れたものが見れませんでした。
- シオン** : さすが俺ら。
- クリス** : 私も【知覚】チェックしていいんでしょうか？
- GM** : じゃ、場面には登場したということで。あなたは【知覚】チェックする必要はありません。ぴきーっと通じるものがあったようです。
- シオン** : やべ、ニュータイプの光だ！
- GM** : 煙のある方向と違う方向に、見覚えのある人物がいたような気配を感じました。
- クリス** : じゃ、ハッチを閉めようかなって時に「あれは!？」といきなり後ろから。
- フリーデ** : とっさにブロードソード向けてみたり。
- クリス** : とっさに手を上げます。
- シオン** : 「クリス!？ 何をしているんだ、こんなところで!」
- クリス** : 「ご、ごめんなさいごめんなさい!」
- フリーデ** : 「マスター、すぐに戻りましょう」
- GM** : その声に反応したのか、向こうからガシャンガシャンという音が聞こえてきます。バーサーカーです。1個中隊を破壊した兵団は、3~4機くらいだと思ってください。
- シオン** : 「フリーデ、数を減らすためにハッチの中に入っちゃってくれ」
- フリーデ** : 「いえ、様子を見ましょう」とハッチに2人を押し込めて閉める。
- シオン** : 「うわ、フリーデ~!」
- フリーデ** : 何かあったら飛び出せるように身構えます。
- GM** : 様子見でよろしいですね。そうますと、明らかにこちらを確認したにもかかわらず、彼らは敵対意思のないまま去っていきます。
- クリス** : 「離れていっちゃいましたね」と人ごとのように。
- フリーデ** : 『ここまでは離れて大丈夫』って言われていた範囲ってありますよね。飛んで、少し離れてみます。
- シオン** : 「フリーデ!」

GM : 大丈夫ですね。機能は正常に働いているようです。

フリーデ : 戻ってきて、「機能、確認いたしました」

シオン : 「フリーデ。ドキドキだよ……」

フリーデ : 「あなたが気に掛ける必要はございません」

シオン : 「今、残された家族はフリーデだけなんだからね」

フリーデ : ……ちょっと困惑して、「わたしのことはそのようにお気遣いなさいませんよう」
って。

シオン : 「どうして周りは自分で決めて自分で勝手に話を進める人しかいないんだ……」

フリーデ : 「シオン様、確認は済みましたので早々に戻りませんか」

シオン : 「ったくわかったよ。……で。ク～リ～ス～？」

フリーデ : じゃ、その辺は戻りながらの会話ということで。

クリス : 「（つとめてヒロインっぽく）ごめんなさい。シオン君が心配だったから……」

田中 : おお、なんか『私がヒロインよ』って感じがしますね。（笑）

クリス : そういうふうには言わない！

シオン : ダメですよ、今これから頑張るんですから！

クリス : 「フリーデさんもごめんなさい、勝手にこんなことして」

フリーデ : 「ええ。次からはこのようなことはないようお願いいたします」

シオン : 「クリス、もしどうしても何かあったら最初に相談して。わかったよ。クリスを置いてくることは不可能だ」（笑）

GM : そう、気づけばそこに彼女が。

シオン : 「もう止めない。レキさんに言ったら通らない事かもしれないけど僕が協力する。なんかあった時は助けるから、もし何かやりたいことがあったらまず相談して」

クリス : 「ありがとう、シオン君！ わかった、ちゃんと相談してから乗り込む」

シオン : 「……もう諦めた」

クリス : 諦めた、とか言わない！

フリーデ : クリスに「あなたがついてきたのは、シオン様が心配だったらなのですか？」と。

クリス : 「そうです。シオン君……シオン君とフリーデさんが心配だったし、それに確認したいことがあったんです」

GM : そんなことを言っていると、レキ達がいる場所に戻ることになります。

SCENE 4 シーンプレイヤー：レキ・ストランド（同行者：ジール・田中）

- GM** : ちょっと時間軸を戻します。シーンプレイヤーはレキさん。アームドギアがバーサーカーのいる範囲内に入っていった後で、気がつくことがありますね。
- レキ** : クリスがいない。（笑）
- GM** : ベルクは「このルートを通れば間違いない」という話などを田中にしています。
- レキ** : 「クリスを見なかったか？」
- 田中** : 「いや、先程はそこら辺にいたはずだが……」と適当に言っておこう。
- レキ** : 「周りを見たんだが、どこにもいないんだ」
- 田中** : 「確か出発する前はいたぞ、アームドギアのところに」
- クリス** : 『アームドギアのところに』に。（笑）
- GM** : 「彼女ならアームドギアに乗り込んでいるところを見たが、一緒に乗っていったんじゃないのか？」（笑）
- レキ** : 「なぜ止めなかった!？」
- GM** : 「いや、当たり前のように乗っていたからそういうものだと思って……」
- 田中** : ちなみに叱る係よろしくー。俺は信用しきっているパターンで盛り上げていますんで。
- レキ** : 「もしアームドギアが帰ってこなかった場合、指輪も一緒に失われることになるぞ!」
- GM** : 「お前達の話では戻ってこれる確信があると。しかもあの田中が言ってのけたんだ。大丈夫だろう」
- レキ** : 「そのテストにクリスがついていったことが問題なわけで……!」
- GM** : そんなことをしていると、白い機体が戻ってきますね。
- レキ** : そっちに走っていく。「シオン、とにかくコクピットを開けろ!」
- 田中** : 今は誰がシーンにいるわけですか？
- GM** : 皆さん登場している、で構いません。
- シオン** : 「クリス、レキに怒られる覚悟はできているよね?」
- レキ** : 外を見ると、こーやって腕組んで立っている。（笑）
- フリーデ** : 「クリスに用事ですか、レキ? 呼びますので、少々お待ちを」
- レキ** : 「うん、早く頼む。大事な用事がある」
- クリス** : えーと……シオンの背中に隠れている。（笑）
- シオン** : コクピットの中で「レキ、こういうわけだったんだ。ごめんね〜」
- クリス** : 「ごめんなさい、レキさん」
- レキ** : 「いいから降りてこい」（笑）
- フリーデ** : わたしはジールさん達の方に行って「アームドギアから10m離れても問題ありませんでした」っていう話をします。クリス達とは関係ないところで。
- シオン** : 俺もそっちに行こうかなーって思っているんだけど、服の端をクリスに捕まえられているんだね。（笑）
- クリス** : そういうことに。
- シオン** : 僕悪くないのになー。「レキ、とにかくごめん」
- クリス** : うつむいています。何も言いません。
- シオン** : 「こんなことになったのも僕のせいだから」
- クリス** : いいねーいいねー、青春だねー。（笑）
- レキ** : 「シオン、お前の意思で連れて行ったのか?」
- シオン** : 「う……気づかなかったのは僕のせいだと思う。ひよっとしたら気づかないようにし

ていたのかもしれない。クリスがいた方が安心だし」

田中 : おお！

シオン : ちょっと頑張ってみたよ。

クリス : それを聞いて「違うんですレキさん、私が勝手についていったんです！」と。

シオン : 「いいよクリス、黙ってて」

クリス : 「シオン君……」

田中 : 盛り上がっています。いい感じになってきたなー。

シオン : 「以後、何かあった時は僕が責任持って何とかするから。……というよりもレキ、クリスを止めることは不可能だよ」

クリス : 諦めんなそこで！（笑）

レキ : 「今回は無事でよかったが、次からは勝手に行動をすることだけはやめてくれ。ついていくのもしょうがない。だが一言言っていってくれ」

シオン : なんかレキとわかりあえてきた……。 （笑）

GM : いいぞヒロイン、そのままかき乱せー！（笑）

クリス : 「これは私たちウェストリ王国の問題なのにシオン君やフリーデさんを巻き込んで……」って感じで。

シオン : 「あれ、クリスってウェストリ王国の関係者なの？」

レキ : 一応話は聞いているんだよね。姫だっていうのはまだいまいちわからないけど、姫の証である指輪をもらったっていうのは？

シオン : 俺らはその話は聞いた？

フリーデ : ゲイルさんが「姫！」って言ってたのを見てたから姫様だったんだー、とかいうくらいでしたね。

シオン : そこまで揃うと「じゃ、ウェストリ王国の姫……？」

クリス : はっとします。「そんなんじゃないわ」って。

レキ : その辺がレキの立場としていまいちわからないところなんですよ。姫を完全に認識できないっていうのはどうなんだろうという。

GM : ただ、マーカスは姫と信じ指輪を託したと。

レキ : 路線的には『姫だよ、姫だよ』っていつているけど……。

クリス : 私もね、あんまり『姫、姫』って路線がきているから、ひよっとしたら違うんじゃないかなーと。

フリーデ : 姫のエイリアスだったとか？（笑）

GM : あ、それおいしい。

シオン : サクセサーになった時にエイリアス追加！

レキ : クリスに「あなたもご存知かと思うが、大事な身なのでこれからは勝手な行動を慎むように」

クリス : 「ごめんなさい……」

シオン : 「でもレキ、姫だろうと何だろうとクリスはクリスだ。しょうがないよ」

クリス : 「シオン君……」きらきらきらーっとシオン君を見ますね。

フリーデ : でも今『しょうがない』って……。 （笑）

シオン : 今諦めの言葉をヒーローっぽく言ったんだから！

田中 : はいはいはい、とかいう感じで。「まあまあ、そういう話もいいが、我々は今作戦中だぞ」

フリーデ : 「話は済みましたか？ お疲れさまでした、レキ」

シオン : 「クリス、今回はどうする？」

クリス : 「お願いします」

シオン : 「ん。じゃ、乗ってて」

田中 : 「ちゃんと優しくエスコートするんだぞー」みたいな感じで。

レキ : 「シオン」がしっ。「任せたからな」(笑)

シオン : 「レキ。……卑怯～」

レキ : 「何を言う。——代われるものなら代わっている！！」(笑)

SCENE 5 シーンプレイヤー：クリス（全員登場）

GM : シーンプレイヤー、クリスさん。

シオン : やべ、同行者として俺も出ないといけないということだね。

GM : いえ、全員登場です。アームドギアを先頭に進んでいきます。途中、何度かバーサーカーと遭遇していますが無視され続けています。

フリーデ : でも完全に安心はできないんで、バーサーカーひとつひとつの動きをチェックはしています。

GM : ジール・ベルクも驚きは隠せないね。「噂には聞いていたがこれほどのものとは。バーサーカー達が敵対心を現していない」

シオン : でも逆に考えれば、コレはバーサーカーみたいに暴走することがあるかもしれないですね。（笑）

田中 : そうやっていろいろ言わないの！

レキ : 15歳くらいなんですから『すごいよ父さん！』みたいな感じで。

シオン : だって『すごいよ父さん』って言えないもん、初期情報で。

クリス : じゃ、シオン君に「シオン君のお父さんってすごい方だったんですね」と。

シオン : 「そうだね……すごかったんだね、本当は」

GM : そんなことを言っていると、遺跡のふもとに着きます。

フリーデ : 遺跡って、どういう状態の場所を指しているんですか？ 建物？ 山？ 王家の谷の入り口みたいな感じ？

シオン : 俺がイメージ的していたのはサグラダファミリア。（建築家ガウディによって設計・建築されたバルセロナの教会。未完成。高さ150mの尖塔を持つ）

レキ : マクロスが突っ立っているみたいなイメージだったんですが。（by『超時空要塞マクロス』マクロスは全長1200mの巨大な戦艦で、宇宙より飛来し墜落したもの）

GM : 山のような建造物。超兵器みたいなものが落下したみたいなものと考えてもらえれば。

レキ : プレイヤー的にはおっきい宇宙船みたいなものが突っ立っている感じで？

GM : そんな感じ。

フリーデ : 「ジール・ベルク、この先はどのような計画になっているのですか？」

GM : 「ここから先は調べられなかった。入り口が見つかった試しがないんだ」

シオン : 「じゃあこれ、どうやって入るんです？」

GM : 「その鍵を彼女が持っているという話を聞いたんだが」

クリス : 「鍵……」

シオン : 伝説はえーと、獅子の首とグリフィンの首？（笑）

クリス : 首じゃない！

レキ : クリスに、「クリス、何かわかるか？」って感じで。

田中 : ここでびびーんとオラクルパワーみたいな。

クリス : いやいやいや。

GM : クリスさん、どうします？

クリス : えーと、じゃ、「シオン君、ちょっと開けてもらえますか？」って。

シオン : ハッチを開けて手を前に出す。

クリス : 手に乗りながら。指輪に「教えて。入り口はどこ？」って感じで。

GM : 特に何もありませんね。

クリス : 「やっぱり一つだけだとだめなのかしら？」って呟く。

GM : 呟いて、何もませんか？

シオン : オラクルで、びびびびび。

クリス : んー……。【知覚】チェックしてもなあ……。

レキ : オラクルの技能的に何かないですかね。

クリス : (キャラシートを見直しつつ) 何かないかなあ。——じゃ、《フリッグの予知》(オラクル1Lv特技。1セッションに3回までGMに質問できる) やります。

田中 : 何ですか、《フリッグの予知》って？

クリス : ゲームマスターに質問ができる。

GM : どうぞ、カモンカモン。シナリオの根元の質問をすることができるんですよ。

田中 : 特技あるじゃねーか！ (笑)

レキ : その質問は関西弁でよろしくお願いします。

GM : なんで関西弁？

レキ : 何となく。なんか暴力的でいいかなと。

シオン : あの、ヒロインをおとしめてどうするんですか。

レキ : でもプレイヤー発言じゃないですか、その質問って。

クリス : じゃ、プレイヤー発言でいきまーす。——(暴力的というよりヤーさん風に) に一ちゃんに一ちゃん、入り口どこにあるんかねえ？ 教えてもらえんかのお。(笑)

GM : (似たような口調で) とりあえず指輪さすれや。(笑)

クリス : 見回して何も起きないのを見ると「右手に獅子、左手にグリフィン……」って呟きながら、何気なしに指輪をさすります。

GM : そうしますと、グリフィンの目が光り輝きますね。……言うのはすごく嫌なんですけど、光がある一点を照らしています。

クリス : ぴーっ。

GM : 今まで壁だった場所がすーっと光って、ありえない開き方をします。

シオン : 「クリス、ここ？」

クリス : 「だと思えます」

シオン : 「わかった。じゃあクリス、またコクピットに入って」

クリス : 「はい」っていそいそと登っていきます。

レキ : 「こ、これが指輪の力か」みたいな感じで。

クリス : なんだ、1個だけでも大丈夫じゃーん。

GM : ジールも「確かに鍵となるものとは聞いていたが、まさかこれほどのものとは……彼女は一体」みたいな感じで見ますね。指輪はまだ光り続け、奥をずっと照らし続けています。

シオン : じゃ、コクピットだけ開いた状態で。「すごいね、クリス」

クリス : 「すごいのは私じゃないわ……」

田中 : あー、なんかちょっといい感じですね。

クリス : 頑張ってます。どうせみんな指輪の力さー、みたいな感じで。

フリーデ : ア、アイテムカップル……。 (笑)

田中 : そんなすげーこと！ 俺も言えなかったのに！

フリーデ : でも、みんな心の中で思っていたはずですよ。

田中 : それは超思っていました。

シオン : ひどいや、あんまりだ！ 頑張っているのに。

クリス : 嫌だなーそれ。

レキ : 説教までしてキャラクターを結びつけたのにアイテムカップルなんて。(笑)

田中 : だってこの白い奴と指輪があれば……これ以上は言えないけど。(笑)

レキ : みんなに「ちゃんと警戒して進むように」みたいな感じで言うておきます。

GM : 「ここから先は私たちの情報にもないところだ」

フリーデ : ちなみに、わたしって何か記憶にありますか？

GM : そうですね、じゃ、【理知】で振ってもらえますか。目標値は9くらい……。

フリーデ : はーい。(ころころ) あ(1ゾロ)。(笑)

レキ : サイコロ変えた方がいいかもしれませんね。二連ちゃんですからね。

フリーデ：（ダイスを交換しつつ）……何も言わずにみんなにくっついていきます。

シオン：フリーデのOSはMe（2000年に出たWindowsのOS。メモリを多量に消費する特性があるためフリーズ・暴走しやすく処理が遅い）ね。

クリス：前を飛んでいるフリーデさんを見ながらシオン君に「シオン君、ヴァルキリーのことはよくわからないんだけど、フリーデさんってシオン君のお母さん？」みたいな感じで、ちょっとボケ。

シオン：「母親役っていいたいところなんだけど、フリーデ拾ったのが2年前で……」

クリス：「拾った？」

シオン：「箱詰めになって海に浮いていたんで……」

クリス：箱詰め！？

フリーデ：そう、3つのダンボールに分かれて。（笑）

GM：あの、それはないと思ってください。ガラクタ同然で漂流していたと考えてもらえば。五体は無事です。メモリが欠損していて、最初は機能できなかったことは補足しておきますが。

シオン：父さん曰く『Meじゃねーか！』と。

田中：何のことだ、Meとは！

フリーデ：サスペンドかけるとちゃんと元に戻らないんだよー。

シオン：デフラグすると消えちゃうぞー。

クリス：「シオン君はフリーデさんのことをとても大切に思っているのね」

シオン：「そうだね。残された家族はフリーデだけだから」

クリス：「家族かあ……」ちょっと羨ましそうに。「シオン君はフリーデさんの言うことだけはちゃんと聞くものね。家族っていってもらえるフリーデさんが羨ましい」って感じで。……はいシーン終わリー。終わリー。

田中：お、強制終了されてしまいました。

GM：「これから遺跡の眠る地に踏み込むことになるから気をつけていきましょう」とベルクさんが言って、入るところで終了でしょうか。

SCENE 6 シーンプレイヤー：レキ（全員登場）

- GM** : アームドギアの横に皆さん隊列を組みながら進みます。
- シオン** : あ、そういえば入ってきた扉って閉められる？
- GM** : 開きっぱなしです。
- クリス** : いろいろやってみたけど閉まりませんでした。
- GM** : 進んでいきますと、赤いムシのような機械、数体と遭遇します。
- フリーデ** : 大きさどのくらいなんですか？ ムシって……（人差し指と親指を開いて）このくらい？
- レキ** : このテーブルくらい？
- クリス** : この部屋くらい？
- シオン** : 部屋くらいのムシが出てきたら走って逃げる。
- GM** : サイズ1ですから人間サイズ。セキュリティのバーサーカーだと考えられます。外で闊歩しているバーサーカーとは明らかに型が違いますね。
- フリーデ** : ぴたっと止まって。
- レキ** : 様子を見ましょう。とりあえず構えます。「今までと違うぞ」みたいな。
- GM** : 「これまでの報告にない、新しいタイプのバーサーカーだな。システム的には同一のタイプだから大丈夫だと思うが……」とベルクは言います。バーサーカーは近づいてきて、赤いセンサーみたいなものをアームドギアに向けてぴーっと検索します。すると青っぽかったバーサーカーの目は赤く……。 （笑）
- 田中** : 赤く。あー……。
- GM** : ぎち、ぎちぎちぎちって感じで、どうやら戦闘態勢に入ったようですね。
- レキ** : 「様子が変わったぞ！」
- シオン** : 「外と中のシステムは違うみたいだね。父さんだって外の機体からとってきたんだと思うから。……クリス、しっかり捕まってる！」
- クリス** : 「はいっ」って感じで。
- 田中** : ATの中が一番危険だぞ。（by『装甲騎兵ボトムズ』。AT＝単座式ロボット兵器アーマード・トルーパー。主人公が乗る機体ながら最前線に投入される大量生産兵器）
- GM** : そんなことをしていると雄叫びがきまーす。
- シオン** : 俺、プロテクター脱ぎっぱなしだったー！

■戦闘I VS ムシバーサーカー（モブ）5体×2グループ■

[行動順] 行動値13 シオン

行動値11 ジール・田中 クリス レキ

行動値9 フリーデ

行動値なし ムシバーサーカー（モブ）5体×2グループ

- GM** : こっちの行動がくる前に倒しちゃってください。
- 田中** : 頑張りまーす。一番早い行動力の人？
- シオン** : 俺かな、13だから。一発でかいの入れてとくか。
- 田中** : なんかある？ 一発で倒して終わってよ。
- シオン** : うん、《なぎ払い》（ファイターLv2特技。物理攻撃を〔範囲：選択〕にする）で2グループに命中判定いきまーす。（ころころ）で2グループに命中判定いきまーす。（ころころ）低いつす。えーと、18だ。
- クリス** : さすがレベル上がると違うねー。
- GM** : （ころころ）回避できるわけねーじゃん。
- シオン** : ダメージいきます、《猛攻》（ファイターLv1特技。ダメージに+1D6）。

GM : これで倒せなかったらへボだぞー。

シオン : ダメージはそんな高くないんです……あ、ごめん、高かった。基本値が16でした。(ころころ) 20の〈斬〉。

田中 : なに、そんなに強いの!?

GM : はい、1グループ壊滅。

シオン : 1グループじゃない、[範囲:選択]で全部。

フリーデ : ……終わっちゃった。

田中 : 強えー！

シオン : 皆さんに懺悔することが1つございます。私、《なぎ払い》なんて一番最初から持っていました。

田中 : なんなんだ、強えーんじゃん!

GM : 華麗としかいいようがないですね。バーサーカー総勢10体が一瞬にしてまっぷたつ。

フリーデ : あっけにとられて見えています。

シオン : 師匠であるレキさんの、サムライらしい流麗な動きを真似てみました。

田中 : 今度サムライ取ろうなんて考えているんじゃないかーだろーな、おい。

シオン : しーっ!

クリス : 「これがアームドギアの力!」って感じで。

田中 : みんなが『これがアームドギアの力』! (笑)

レキ : 俺だけはわかっているような感じにしましょう。「シオン、なかなかの鍛錬の成果だな」

シオン : そうだね、すんげースパルタだったもんね。(笑)

GM : ムシバーサーカーは、機能停止する直前に甲高い音を出しますね。カタカタカタカタ……。そうすると、穴という穴から出てきます。

シオン : 「急ぎます! 切り拓きます、ついてきてください!」

田中 : なんかなー。強くなった途端、強気になりやがったなー。

クリス : 少年が青年になるんだね。

シオン : 背後にかばう女性がいれば、少年はいつだって男になるんですよ。

SCENE 7 シーンプレイヤー：ジール・田中（全員登場）

- GM** : バーサーカーから逃れつつ、光の方に向かうということによろしいですね。ジールさん、代表として1回判定してもらえますか。
- 田中** : え、何で判定？
- GM** : 偶数が出たら1回も戦闘を行わずに無事回避。奇数が出たら戦闘があると思ってください。
- シオン** : マスター、そういうのは姫に。
- クリス** : ええー！
- GM** : そうですね、引きの強い彼女に。偶数出たら無事戦闘もなく辿り着く。奇数が出たら追いつかれて一戦闘と考えてください。
- クリス** : 偶数出ろー、偶数出ろー。おりゃっ。（ころっ……5）
- GM** : おめでとうございます。前と後ろから挟まれて4グループ。
- 田中** : 4グループもか！
- シオン** : 皆さん、本日もまた見事な経験値が運ばれてきました。
- 田中** : 早くなぎ払っちゃってよー。

■戦闘II VS ムシバーサーカー（モブ）5体×4グループ■

[行動順] 行動値13 シオン
行動値11 ジール・田中 クリス レキ
行動値9 フリーデ
行動値なし ムシバーサーカー（モブ）5体×4グループ

- シオン** : 19とって命中しかけています。
- GM** : ください。
- シオン** : いきまーす。《なぎ払い》（ファイターLv2特技。物理攻撃を〔範囲：選択〕にする）に《猛攻》（ファイターLv1特技。ダメージに+1D6）つけますんで（ころころ）ダメージが23。
- GM** : はい、おちた。終わり。
- クリス** : ばたばたばたばた。
- フリーデ** : 「シオン様、いつの間にそんな……」
- シオン** : でもこれ、MPがりがり食っている。
- 田中** : 関係ないよ、[ブレイク]すればいいんだから。でも、本当に何もしないで経験点もらえるのも悔しいね。
- GM** : あまりにアレなんでもう1回判定してもらえますか。今度はそうですね、フリーデさんあたりにやってもらおうかな。今度は脱却してもらえた方がいいかなと。
- フリーデ** : はい。でも出した方が経験点になるんですよね。（ころころ）……出ない。クリスみたいにはいきませんでした、申し訳ない。（笑）
- 田中** : いやいや、クリスは特別なんだよー。（笑）
- クリス** : なんかひそかにおとしめられているような。いやーな特別だなー。
- GM** : バーサーカーを振り切りましたね。開けた場所に出ます。そこにはやはり空間が。
- レキ** : 出口はないんですね。
- GM** : 今度はその場所になかったものが見えてきます。光学迷彩（物体を光学的にカモフラージュするための技術。『攻殻機動隊』などに登場）でもかけられていたんでしょうね。
- シオン** : 雨が降るとオゾン臭が。
- クリス** : 輪郭に光が走った感じでぼーっと姿で出てくるんでしょうね。

GM : そうすると、目の前に巨大な一隻の船が鎮座しています。まさに遺産と呼ぶにふさわしい。

田中 : あれが、ニュー・ノーチラス！（by『ふしぎの海のナディア』）（笑）

レキ : 今回はそっち寄りらしいです。

GM : そこで.....そうですね、今度こそフリーデさん【理知】よろしく。

シオン : まず振る前に言ってあげれ。目標値、4とか3とか。ファンブルしなきゃいいよ、とか。

GM : 12でよろしくをお願いします。

フリーデ : (ころころ) 8です~。

GM : 一瞬脳裏にかすめるものはありますが、それが何なのかわかりません。

フリーデ : ちょっと立ち止まって目を眇めるけど、何も言わないでみんなについていきます。

レキ : 「これが例の、神の遣わした白き翼って奴か」

フリーデ : 全長十数メートルってイメージでいいですか？

GM : でかいですね。

シオン : ということは、全長は200メートル以上。

レキ : え、広場ってそんなに大きいんですか。

GM : 遺跡自体がものすごいでかいところなんで。

レキ : じゃ、地下道のちっちゃいところをわーっと走っていったイメージがあったんですが、もっとでかいんですね。

シオン : 考えてみれば簡単な話なんだけど、9メートルくらいあるアームドギアが戦闘しているんだ。

GM : 遺跡そのものが山のようにでかい。

レキ : 関越トンネルくらいのを2つ並べてくっつけたようなところをだーっと走っていったら、更に学校と校庭を合わせたような広場があって.....。

シオン : そこに体育館分くらいの船.....下手するともっとでかいのか。

田中 : 学校の校舎くらいでしょう。

フリーデ : ちなみにこの空間、光源は？

GM : 明るいです。ですが何故明るいのかはあなたたちの知識では計り知ることはできません。クリスさんの指輪はずっと船を指しています。

クリス : じゃ、近づきたいんですが.....。シオンにちょっと近づいてもらえるか頼んで、手にのつけてもらいます。

シオン : 手に乗つけたまま近づいてみましょう。

クリス : ちょっと触れてみます。届くかな。どうかな。

シオン : 近づいてみましょう。本人はなんかあった時に撃てるように弓を構えています。

フリーデ : わたしは来た入り口を警戒しています。

GM : 入ってきた場所は閉じて、扉みたいな状態になっています。

シオン : 関節ロックして、俺も手のところまでいこうか。

クリス : お願いしやす。

GM : そうしようとするところで、影がすっと動いたと思うとクリスさんの背後に銃を持った人物が立ちます。――「動くな」

クリス : はっ。

GM : その人物はなんと、ジール・ベルクさんです。

全員 : (ちょっと白々しく) えええー。

クリス : 「ジールさん、何故？」って感じで。

田中 : そうそう。「どういうことだ」って感じで。

GM : 「悪く思わないでくれ.....」

シオン : 「これを悪く思わない人間なんていないですよ、何考えているんですか」

クリス : 「ジールさん、一体どうしたっていうんです。最初からこれが目的で？」

GM : 「そうだ」ジールはまわりに向かって「あんたらプリムローズにこれを渡しても、しよせん帝国の大きな力には敵わない。だったら俺がヨルムンガンド社に行くための手土産にさせてもらう」

クリス : ヨルムンガンド社？

田中 : あの、ちょっと悪っぽいところですよ。

GM : 「G=M社もプリムローズとの関係がバレつつある。あそこに勤めていても先がない」

田中 : しょうがないよね、つきつけられているんだもんね。

GM : 「彼女は船を操るための起動キーの秘密を握っている人物だ。一緒に来てもらおう」

シオン : ……あ、やべ、今性格の悪いことを言いそうになった。俺ヒーロー、俺ヒーロー。

GM : 彼女を捕まえたまま、跳躍して降りますね。

シオン : 「それ以上動かないでください。僕の弓だってあなたを狙っています！」

GM : 「彼女ごと殺す気があるならな。君にそこまでの度胸はあるまい。俺はもう嫌なんだ、こんな泥水をすするような仕事で生きていくのは！」

田中 : がーん。それで生きてまーす。

GM : 「エレンもそんな一生は望んでいないはずだ。俺はエレンと一緒に日の当たる世界で生きるんだ」

田中 : えーと、「そんなことをやってもエレンは喜ばないぞ」

GM : 「うるさい黙れ、お前に何がわかる！」

田中 : 「確かに我々は今まで汚れた仕事をやってきた。だからこそ罪滅ぼしの気持ちで」———適当にストーリー作ってしまうんだけど———「プリムローズに加担しているんじゃないか」

GM : 「お前は昔からそうだ。そうやってきれい事を言う。そんなお前を、昔から反吐が出る思いで見ていたんだ。俺はお前のようににはならない！」と言いながら、どんどん後退していきます。

田中 : 「シオン君、かまわん。やりたまえ」

クリス : おいおいおい！

GM : 閉まった扉の前までいきます。「どのみちお前達にはこれを持ち運ぶこともできまい。何せ鍵は彼女が握っているのだからな」

フリーデ : 撃ってみる？

シオン : 行動しないと膠着すると思うし……。とりあえずやってみてて思ったのは、シオン、考えないで行動するわと。とっさの時にこいつバカだと。

GM : じゃ、どうぞー。

シオン : ジール・田中を信用して撃ちます。

GM : 撃つんですね。扉側にいて「手を出すな、お前らにそんな度胸はあるまい！ 切り札を失うことになるんだぞ」

クリス : 「離して！」みたいな感じで。

GM : 「あんただって、プリムローズがあんたの力を利用していることはわかっているはずだ。あんな勝ち目のない奴らにつくくらいだったらこちらの側についた方がまだいいんじゃないのか」

レキ : それに関しては言うでしょうね。「何を言う！ 帝国の非道を見ればわかるだろう。この先に人の未来はない」

GM : 「あらがったところで滅ぼされるのがオチだ。強い者について何が悪い」

クリス : 「強い者について、それであなたは救われるのですか！」

GM : 「うるさい、俺はエレンと……！」

シオン : 「それでも、僕の選択はあなたを撃ちます」と、撃ちまーす。

フリーデ : わたし、[隠密状態]で動いているってことでお願いします。

シオン : 今までしゃべってないしね。(ころころ)【命中】はちょっと低くて17とっています。

GM : 《エーギル》(エージェントの加護。対象の判定をファンブルに変更させる)。「俺にそんな攻撃は通用せん!」と言います。その時、後ろの扉が破壊されます。

フリーデ : そのタイミングで救出に向かいます。クリスの身柄を確保するという事。

GM : 突き破ってきたバーサーカーが、近くにいた相手に致命打を与えます。

フリーデ :? 近くのバーサーカーって?

シオン : 要は、『扉のそば』っていうのは俺らがずっと考えていた船の扉じゃなくて、この部屋の今入ってきた扉に近づいていたと。

フリーデ : え、船に乗り込んで脱出するつもりなんじゃなかったの?

シオン : 彼女と船に乗っても操作できるとは限らないから、彼女ごと逃げてヨルムンガンドに連絡を取って逃げようとしていたと。

GM : ヨルムンガンドとはもう連絡が取れていました。

クリス : その爆発は、ベルクさんは知っている爆発なのかな。

GM : いや、どちらかというと予期せぬ攻撃で、「何っ」って怯んだ瞬間に斬られている。

フリーデ : あ、じゃ、わたしは身柄を確保できたということでもいいのか。クリスは気がついていたら浮いていた、と。

クリス : 覚悟を決めた時に「フリーデさん!？」って感じで。

田中 : ありがとうアトム。(笑)

GM : 一瞬前に裏切られていたとはいえ、旧友が惨殺されるシーンですが何かありませんか?

田中 : えー.....。

メイドさん : (ぼそっと) ざまーみろ。(←今回、この部屋にはもうお一人がいらっしやいました。お茶美味しかったです~)(笑)

シオン : おい、そこの江戸っ子メイド!

GM : バーサーカーはトドメを刺そう、みたいな感じで襲ってきます。

SCENE 8 シーンプレイヤー：クリス（全員登場）

突如現れ、ジール・ベルクをぶった斬ったムシバーサーカー集団との戦闘です。
ジール・ベルクは瀕死の重傷ですがまだ死亡してはいません。

■戦闘III VS ムシバーサーカー（モブ）5体×5グループ■

〔行動順〕 行動値13 シオン

行動値11 ジール・田中 クリス レキ

行動値9 フリーデ

行動値なし ムシバーサーカー（モブ）5体×4グループ

- GM** : 状況的には、一番敵に近いのはクリスとフリーデですね。あとは瀕死のジール。
シオン : よし、フラグ完成させよう。ジール・ベルクをヒロインが回復させる。（笑）
クリス : えー、回復させるの？（←嫌そう）
シオン : ヒロインらしくジール・ベルクに慈悲を与える。
クリス : じゃ、《イドウンの祝福》（オラクル3Lv特技。HPを3D6回復）にしちゃえ。3D6いくぞー。（ころころ）にしちゃえ。3D6いくぞー。（ころころ）低っ！（笑）
田中 : 4点です。3D6で4点回復でございます。（笑）
GM : とりあえず、血止めくらいにはなったかなあ。

これまでの戦闘と同じように、シオンが敵5グループを薙ぎ払います。
攻撃は命中したものの、ダメージがちょっと足りなくて倒しきれず、
残りの奴らを1グループずつちまちまと攻撃することに。
そのため1ラウンドで倒しきれず、向こうからの攻撃をくらってしまいました。

- GM** : 〈光〉の10点ダメージ。
レキ : 〈光〉！？
フリーデ : レーザービーム？
GM : 最後の1グループはフリーデさんにいきます。（ころころ）ごめん、クリった。ダメージが（ころころ）うわ、12点ダメージ。
フリーデ : はい。残りは13点。
GM : クリナップフェイズで最後の1体が仲間を呼びます。グループ数はそのまま、それぞれ2体ずつ追加された。

という感じで、ちょっと苦戦気味になりました。
2R目のシオンの攻撃は回避され、長引きそうな展開に。

- シオン** : 16で避けられましたよ。
レキ : 敵さんもそんなに弱くはないと。
GM : 仮にもバーサーカーです、弱くはないんですよ。
クリス : ゲイルさんに回復いきまーす。《イドウンの祝福》（オラクル3Lv特技。HPを3D6回復）にしちゃえ。3D6いくぞー。（ころころ）いくぞー。えいっ。（ころころ）お、今度はちょっといいか？ 10！
シオン : あれ。今ちょっと期待値を計算してしまいました。
フリーデ : 期待値は10.5ですねー。
GM : 傷はほとんど塞がりましたね。そうすると、疑問みたいなのをあなたに投げかけます。
「何故、俺を助けた？」
クリス : え？あ、ああ、そっか。くるよなその質問は。（笑）

田中 : むしろ普通ですよ。ほらヒロイン、ヒロイン！

レキ : それはエンディングが見たいがため。

クリス : フラグを完成させるため。(笑)

田中 : ちゃんと何か言ってくださいよー。

.....結局、クリスは言うべき言葉が思いつきませんでした。ヒロインタイム終了。
2 R目でも倒しきれず更に仲間が増えたりしましたが、
ちくちくと1体ずつ攻撃をしていって、3 Rで地味な勝利を得ました。

シオン : 19の〈刺〉。

GM : それでおちました。

フリーデ : この後、新手が来る気配は？

GM : あります、当然です。元々セキュリティシステムなわけですから、排除するまでわさわさ出てきます。

レキ : 扉は破壊されていて閉まらないわけですね。

田中 : ここは船に逃げるしかねえ！

GM : ジールさんは回復はしましたが、さすがに動ける状態ではありません。

クリス : ジールさんを肩にかついで。

レキ : クリスはやっちゃいけない。「クリス、離れていろ」って.....でもここは田中さんが持っていくのがいいのか。

田中 : 「クリス、俺が」と。

GM : そんな行動を、ジール・ベルクは理解できません。「俺は.....お前を裏切ったんだぞ？」

田中 : 「いいか、これが仲間って奴だ」(笑)

GM : さすがにジール・ベルクは言葉を詰まらせますね。「俺は.....」って。

クリス : 理屈じゃねえんだよ、って。

GM : そんなことをしていると、向こう側からギチギチ音がしてきます。ここでついにクリスさんのシャードが光る！

クリス : ぴかーん。

田中 : ああ、ブルー・ウォーターが.....。(by『ふしぎの海のナディア』)(笑)

GM : シャードが光り、お告げが来る。『巫女よ、更なる奥へ』

クリス : 「声が聞こえる.....！」って感じで。

GM : 一段と指輪が強く光って、前まで見えなかった扉が見えるようになります。扉から対角線側に新たな扉ができました。しかもその扉は開いています。

フリーデ : 『更なる奥』って飛行船の中じゃなくって、この部屋の向こうにまだ何かあるんだね。

田中 : イメージだと船が浮かんでいるんから、下を通れるんじゃない？

クリス : 「向こうに扉が見えます！」って感じで。

シオン : じゃ、走り込む。

クリス : そこで転んでみたりとか。

シオン : 転んだところで俺が《コーリング》(パンツァーリッター1Lv特技。自分のパンツァーを呼ぶ)して呼んで、抱え込んで走る。

GM : じゃ、そんな感じで奥の部屋に入ったところでシーンを斬ります。

シオン : あ、《コーリング》できません。MPが足りないの。

GM : いいよ、ブレイクしたことにすれば。(笑)

シオン : じゃ、クリスが転んだところで瞬間的にシードがはじけたということで。(笑)

SCENE 9 シーンプレイヤー：フリーデ（全員登場）

シオン : 俺は舞台裏でMP回復がしたい。

GM : 残念ながら叶わぬ願いさ。シーンプレイヤーはフリーデさんです。

フリーデ : 久しぶりにシーンプレイヤーがやってきた！

クリス : 失われた記憶が.....！

シオン : でもしよせんはMeたん（注：擬人化OSのMe版。ドジっ子メイド属性）だし。

GM : 奥に進むと開けた場所に出ます。どういう理由かわかりませんが光が確保されています。部屋の中央には円柱状の水槽のようなものがあります。

クリス : あれか、タイラント（by『バイオハザード』）が入っていたような奴か。

GM : 中には一人のヴァルキリーが浮かんでいます。明らかに同型ですね。向こうは水槽の中で眠っているらしい状態ですが。

フリーデ : お、クエスト達成。（フリーデのクエストは『謎のヴァルキリーに会う』）

シオン : あれが2Kさん、通称できる女（注：擬人化OSの2000版。有能な女性）！

田中 : 「こ、これは!？」

クリス : 「フリーデさん？」みたいな感じで。

フリーデ : 「シオン様、何かご存知ではありませんか？ わたしのデータには何も残っていませんが」

シオン : 「父さんなら何か知っていたかもしれないけど.....」

GM : 近づいていきますか？

田中 : 近づいていくしかないでしょう。

GM : そうしますと、水槽の周りが淡く光りますね。何かの起動がなされたようです。水槽の中の彼女が目覚めます。見回すとあなたが目に入ります。

フリーデ : はい。わたしも見返します。

GM : 「フリーデ、お久しぶりです。今まで何をしていたのですか？」

フリーデ : 「申し訳ありませんがわたしの記憶には欠落があり、あなたを識別できません。わたしの知るべきことがあるなら教えていただけませんか」

GM : しばしきよとんとした顔をしますね。「まさか、メモリが欠損してしまったのですか？」

フリーデ : 「そのようです」

GM : 「何てことでしょう.....。それならば搭載機の暴走も納得できます」

シオン : 搭・載・機？ 暴・走？

田中 : またかー！ ねこの次はヴァルキリーか！

シオン : あらこんなところに張本人♪

フリーデ : わたしのせいじゃない、わたし悪くないよー！ あんなにいっぱい一度に動かそうとしたら止まっちゃうもんー！

シオン : そんなはずはない、あんたのCPUはPentium3.1じゃ！ メモリだって2GBも積んでいる、ハードディスクだってシリアルATAの160だ！

GM : 「あなたは搭載機の制御を司るヴァルキリーなのですよ」

フリーデ : 「そうなの.....ですか」

GM : 「その話は追って話をします」と言った後でクリスに目を向けて「ウェストリ王家の者ですね」と言います。

クリス : 「私はよくわからないのですが.....。この指輪を託されました」

GM : 「その指輪はこのミーティアの起動の鍵です」

クリス : 「これが.....。でもこの指輪は1つでは用をなさないのでは？」

GM : 「そうです。このミーティアは力がありすぎるため、力を手にし易くしては危険と判断された創造主は起動キーを2つに分けました」

クリス : あれか、金庫を開けるには幹部2人の承認が必要。

GM : 「ミーティアの力は強大で、使い方を誤るとこの世界は破滅しかねないくらいです」

クリス : 「そんな力のあるものを作っても……世界を壊してしまったら何もならないでしょうに」と、ヒロインぽく。

シオン : 今、ヒロインレベルが上がった。

田中 : ぴーん。2レベルになった。すばやさが2あがった。(笑)

フリーデ : 1レベルから2レベルって、上がりやすくしてあるんですよね。(笑)

クリス : なんか今、さりげなくひどいことを言われたような。

GM : そんなことをしていると、また周りからズシンズシンと音がしはじめます。

クリス : 「はっ」って感じで。

GM : 「いけません……限界です……。な、奈落が来ます！」と言いますね。

シオン : 奈落ー！？

GM : 天井を突き破って何者かが来ます。

シオン : 「フリーデ、中にいる2Kさんを」

フリーデ : 「わかりました、2Kさんはこちらへ」

GM : まだ名乗ってないんだけどな。

シオン : いやもう2Kさんで決定です。フリーデの本名はMeで。

GM : 「わたしは生きている機能でバーサーカーの暴走を制御するのが精一杯です」

田中 : むしろ離したらバーサーカーの暴走が激しくなるのでやめてください。

GM : 「このシステムを守り抜いてください。そうしないとまた……」というところで、目の前に現れた者が襲いかかってきます。

田中 : 何ですか、それは？

GM : 赤い人型のバーサーカーで、巨大なランスを持っています。同時にあなた方が入ってきたところも突き破られ、ムシ型のバーサーカーが入ってきます。

フリーデ : 『赤いひと』とは違うんだよね？ コクピットに当たる部分と違ってあるんですか？

GM : いや、ないです。自立型です。

田中 : 心配なのは、兄さんだったらいやだなあと。

GM : 安心してください、彼はゲバルトギア乗りですがバーサーカー乗りではありません。——ここでシーンを切りますね。

フリーデ : しかし公式シナリオだけあって、気前よくワールド設定を使いますね。

GM : 公式の強みだね。

シオン : でもいろいろわかったね。まさか、フリーデのOSがMeとは。

フリーデ : いやそれ、わかったところじゃないから！

【クライマックスフェイズ】

SCENE 1 シーンプレイヤー：シオン・シュタウク（全員登場）

GM : 同型機のヴァルキリーが続けて言います。「思ったより浸食が早いようです。攻撃型搭載機まで暴走を許してしまうとは」……どうやら外にいたバーサーカーは攻撃機じゃないらしいです。

田中 : えーっ。

シオン : 外にいるのはひょっとして農耕作業用！（笑）

田中 : そうそう、くわ持ってぎっくんぎっくん。そして人間もぎっくんぎっくん。

GM : 「攻撃型搭載機が汚染されたということは、奈落による汚染はかなり進行しているようです。最低限、今この状況を抑えるだけの時間稼ぎはするので、その間にこの搭載機を破壊してください」

シオン : 時間指定がありますよ、今回。

GM : 戦闘フェイズに突入します。

■戦闘IV VS 戦闘用搭載機 1 体、ムシバーサーカー（モブ） 5 体×3 グループ■

[行動順] 行動値15 戦闘用搭載機（赤いバーサーカー）

行動値11 シオン ジール・田中 クリス レキ

行動値9 フリーデ

行動値なし ムシバーサーカー（モブ） 5 体×3 グループ

シオン : 今いきなり周囲をなぎ払うってできるよね？

フリーデ : あ、やっちゃいましょうか。イニシアチブプロセスのうちに、《フレイヤ》（ヴァルキリーの加護。イニシアチブプロセス中に、追加でクリティカル命中の攻撃を与える）を使って、ガトリングガンで50m範囲内の対象を全部攻撃します。

GM : じゃ、全部にダメージください。

フリーデ : (ころころ) 22の〈殴〉。

GM : はい、3グループおちました、瞬殺です。

シオン : よし、これでボスだけだ！

GM : いきまーす、赤いバーサーカーは《フレイ》で《フレイヤ》コピー。これで命中はクリティカルで成功して《ファランクス》（クリーチャー特技。針や弾丸を連射して [5D6+クラスLv] 点の〈殴〉ダメージ）。6D6+15の魔法の〈殴〉ダメージ。そしてシオンに向かってだけ《トール》（加護。ダメージロールに+10D6）。

シオン : はーい。

GM : (ころころ) 38の〈殴〉ダメージ。シオン君だけは更に10D6いきます。(ころころ) うわ、低っ。23点加えてください。

シオン : 61の〈神〉ダメージ。ま、くらった瞬間にブレイクっていうしかないよな。

レキ : はい、《タケミカツチ》（サムライの加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える）を使います。差し違え技です。

GM : それは《オーディン》（加護。加護ひとつをうち消す）でうち消しまーす。

出だしていきなり大きな攻撃をくらい、しょっぱなから全員ブレイクです。

《フレイヤ》（加護。イニシアチブプロセス中に、追加でクリティカル命中の攻撃を与える）はイニシアチブプロセスの行動なので、バーサーカーはこれからメインの行動ができた筈だったんですが、全員忘れてました。

なので、このままPC側の行動に移行します。

田中 : 《忍装束》（ニンジャ2Lv特技。マイナーアクションで [隠密状態] に）でマイナーアクションで [隠密状態]、その後すぐ《奇襲攻撃》（スカウト1Lv特技、ダメージ+3&

クリティカル率UP)で攻撃いきます。

シオン : うわ、きったねえ。

田中 : 基本ですよ。

フリーデ : マイナーアクションで [隠密状態] にできるようになったんですね。

田中 : でも3回だけ。いきます (ころころ) 低いです。それでも16。

GM : (ころころ) はい、回避です。

田中 : どよーん。

続いてレキの攻撃は命中。

レキ : ダメージいきます。(ころころ) 23点の〈斬〉。

フリーデ : 十分強いよ。

レキ : 「シオン、戦いとはこうするのだ！」

シオン : 当たったから言いやがったな。

田中 : むしろ当たらなければ言わん。当たる毎に言うんですよ。

GM : 少一し傷がつけました。

レキ : 自己修復とかいっていたからなあ。

GM : え、まだ言っていないよ？ ムシにはあるって言いましたが。

田中 : ムシにあればこっちにもあるでしょう。

フリーデ : 《ディスチャージ》(ヴァルキリー1Lv特技。武器属性を〈雷〉にする)使って攻撃いきます。(ころころ) えーと、14。

GM : (ころころ) クリティカルで回避。一一で、15点ぶん回復したのでよろしく。

クリス : おいおいおい。

GM : まだちよつとは傷が残っていますよ。

田中 : もう2レベルくらい上げておくべきだったね、みんなね。

2ラウンド目、バーサーカーはシオンに《トール》(加護。ダメージロールに+10D6)で攻撃。

シオンは《ヘルモード》(パンツァーリッターの加護。シーン内のどこでも移動でき、防御をクリティカルに出来る)でそれを回避。

そのまま、シオンの攻撃番でバーサーカーに27点のダメージを与えます。

シオン : 「師匠、こうですね？ 師匠の太刀筋、参考にさせてもらっています！」(笑)

フリーデ : こっちの方が大きい.....。

レキ : む、って感じですね。攻撃しましょう。

田中 : 《トール》(ファイターの加護。ダメージロールに+10D6)とかで一気に決めるしかないんじゃない？

シオン : そう思いますわ。このターンで様子見て、次のターンで一気に決めないと。

レキ : (ころころ) えーと、17とって命中。

GM : (ころころ) 命中していますね。

レキ : じゃ、トリガー引きます。

シオン : それにそろっと《トール》(ファイターの加護。ダメージロールに+10D6)重ねようか。「師匠、ここです！」と言いながら。

フリーデ : うわ、めっちゃ成長しているよ。キャンペーンも折り返しだもんねえ。

シオン : 今回は『背後にかぼう少女』というのがかなり成長を促進させたので。

レキ : (ころころ) 57点の〈神〉ダメージ。

GM : それを《ティール》(加護。自分の受ける実ダメージを0にする)。

クリス : 《オーディン》（加護。自分の受ける実ダメージを0にする）する？
レキ : いや、まだいいです。まだ《トール》（ファイターの加護。ダメージロールに+10D6あるし、まだまだチャンスはある。
田中 : そこまで言う？ 太っ腹だねー。

.....という感じで、2Rは様子見も兼ねた攻撃をちくちく。
あまりダメージがいった様子がありません。

GM : 次のターンです。――その前にまた回復しました。
田中 : 回復していくから、一発で決めないとだめだよ。
シオン : 向こうが攻撃系の札ばかり使ってくるようであれば、このターンをしのいで一気にガツツといかないと。
GM : どーしよっかなあ。皆さん、今ブレイクしているんだよねー。
レキ : 《ファランクス》（クリーチャー特技。針や弾丸を連射して[5D6+クラスLv]点の〈殴〉ダメージ）が来る可能性が高い。来たら、ダメージに《タケミカツチ》かけるしかない。
GM : 予想通り《ファランクス》。まず《フレイ》（加護。加護ひとつをコピーして使用）で《フレイヤ》（加護。イニシアチブプロセス中に、追加でクリティカル命中の攻撃を与える）をコピー。完全成功にします。
シオン : これは《オーディン》（ブラックマジシャンの加護。加護ひとつをうち消す）で消さないと全滅だね。《オーディン》で消して《フレイ》が発生しないようにして、これでイニシアチブプロセスが終了。で、メインプロセスで改めてお前さんの行動。
GM : じゃ、普通に《ファランクス》で攻撃。命中いきます.....（ころころ）14の【魔導】。
田中 : それ俺、9出せなかったら死亡じゃないですか。それだったら《エーギル》（エージェントの加護。対象の判定をファンブルに変更させる）で消した方が.....。
シオン : いや、一人までなら《カバーリング》（ハンター1Lv特技。他人をかばう）&《ティール》（ハンターの加護。自分の受ける実ダメージを0にする）で消せる。
田中 : それでいいなら.....。一応《空蟬》（ニンジャLv3特技。回避に成功すると追加で行動できる）使ってみたりします。（ころころ）あ、だめだ。
シオン : 14の魔法なら.....（ころころ）俺、回避。
フリーデ : （ころころ）あ、クリティカル回避。
クリス : （ころころ）回避。
レキ : （ころころ）受動側有利だから、回避。
GM : 田中さんにだけ6D6がいきます。
クリス : 振り直しする？ 《スノトラの英知》（オラクル1Lv特技。対象の判定を振り直させる）で。
田中 : 振り直しあったんだね。でも9だから、多分俺出ないと思うんだよなあ。（ころころ）ほら出ない。9ってそう簡単に出ないですよ。
フリーデ : 田中さんに《カバーリング》（ハンター1Lv特技。他人をかばう）いきまーす。
GM : 37の〈殴〉ダメージ。
フリーデ : はい。じゃ、物も言わずに田中さんの前に飛び出して、その分のダメージをいただきます。で、そのまま《ティール》（ハンターの加護。自分の受ける実ダメージを0にする）で消します。
GM : はい、みなさん攻撃をどうぞ。.....これで一気に加護を使っちゃったなあ。

3ラウンド目。

一気に勝負を決めるべく、シオンの最初の攻撃にまず《トール》を（ファイターの加護。ダメージロールに+10D6）乗せました。

シオン : 59の〈神〉ダメージです。

GM : わかりました。それを《タケミカツチ》加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える)。そこに《ネルガル》(加護。攻撃対象をシーンに存在する任意数のキャラに変更)はできるんでしょうか。

シオン : 《タケミカツチ》を《ネルガル》にすることはできません。

田中 : 《ネルガル》もあるんかよー。

シオン : 《タケミカツチ》を消さない俺が死ぬ。

フリーデ : 死んでから《イドウン》(ホワイトメイジの加護。キャラ一人を復活させる)でいいんじゃない？

シオン : じゃ、そうしましょう。

フリーデ : どうぞヒロイン。

クリス :え？ あ、いや、どっちでも。

レキ : それはヒロインが魅せるべきでしょう！

クリス : ここはヒロインかなー。

田中 : あんた何やっているんですかもう！ ちょっとそこに正座しなさい。あれじゃないですよ、(読書中のメイドさんを示しつつ)こっちのチームになっていたでしょう。(笑)

クリス : ちょっと今傍観者になっていました、すいません。正座してがんばります。「シオン！」って感じで.....どうしよう。「シオン君、死んじゃ嫌！」って.....あー、言ってる大変だなー。《イドウン》(ホワイトメイジの加護。キャラ一人を復活させる)いきまーす。

シオン : 《イドウン》で私、ブレイクから一気に回復しましたんで。

GM : ちなみにこっちはダメージくらっていますけど、まだピンピンしています。

シオン : 59でピンピンかよ！ かんべんしてくれよ。

更に畳みかけ攻撃。今度はレキ。

レキ : 斬りまーす。(ころころ)えーと、クリティカルしました。

シオン : ここで《トール》(ファイターの加護。ダメージロールに+10D6)2枚重ねないとやばい。

レキ : トリガーを引いて、《トール》。

クリス : 《フレイ》(オラクルの加護。加護ひとつをコピーして使用)で《トール》コピーするかね。

GM : じゃ、《トール》2枚で、22Dの〈神〉ダメージ。なんだ、いけるじゃん普通に。って待て。また今回もレキかい。

シオン : 俺いつも露払ってレキが決めてくれるという。

レキ : トリガーを足すんで、23Dの〈神〉ダメージ。(と、ダイス入れからダイスを出して数を確認)

シオン : 一応、こっちにもダイス13個あります。

フリーデ : 本人だけじゃくくって、みんなで分担して振ってもいいくらいだね。

シオン : じゃ、《フレイ》の分の《トール》はこっちで。(クリスにダイスを渡しながら)どうぞ10個。

クリス : え、私が振るの？ ダイス目に不安があるんだけど.....。

田中 : 大丈夫大丈夫、絶対終わりですよこれで。本気で。

シオン : これで終われないようだったらマスター殺すから。(笑)

フリーデ : その場合、新聞に載る時の動機は何になるんだろう。

レキ : 『横暴なマスタリングのため死亡』。(笑)

クリス : じゃ、いいかなー。(ごろごろごろ) なんか.....低くない、やっぱり?

田中 : ソンナコトナイヨ、ソンナコトナイヨ。ダイジョブダイジョブ。

シオン : 30。

フリーデ : 期待値はねえ、35。(笑)

レキ : (ごろごろごろごろ) 61の.....30の.....105点の〈神〉ダメージ。(拍手)

GM : 105点ですか。それは《タケミカツチ》(加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える)。

レキ : きたっ。

シオン : これは《オーディン》(ブラックマジシャンの加護。加護ひとつをうち消す)しないとどうしようもない。

レキ : いや、《イドウン》(ホワイトメイジの加護。キャラクターを復活させる)でいいでしょう。1回死にたいです。不死鳥の如く戻ってくるつもりなんで。(笑)

フリーデ : では、レキさんのダメージは私が《イドウン》かけますね。

GM : ちなみに.....生きてます。が、もうボロボロです。トドメさせば落ちます。

レキ : これで完全回復。もう1回ブレイクできますな。《タケミカツチ》(加護。自分の受けたダメージを相手にも同時に与える)がもう1回使えますな。「ち、まだ死なないか!」

シオン : あれ、ブレイクは1シーンに1回だからブレイク状態も解除されるのかな。

GM : 《イドウン》(ホワイトメイジの加護。キャラクターを復活させる)クラスだったらOKなんじゃない?

シオン : じゃ、今回はブレイク解除でいいね。(注: 実は、《イドウン》で復活しても[ブレイク]状態はシーン終了まで続行します。詳しくはアメージング・ワールドQ&A参照のこと)

田中 : 早く倒しましょうや。皆さん加護は何がありますか?

フリーデ : 使い果たしました。

シオン : 使い果たしました。

クリス : 同じく。

レキ : 《タケミカツチ》1個。(笑)

シオン :(田中に)で、何持ってます?

田中 : えー.....全部持っています。(笑)

シオン : あの、ここに裏切り者が。

GM : どうします? 何もしないと回復しちゃうよ? でも今のが効いていますから、全員で波状攻撃をかければ死ねます。

シオン : 《エーギル》(エージェントの加護。対象の判定をファンブルに変更させる)、《ツクヨミ》(ニンジャの加護。他人の加護を使用させる)、《ヘイムダル》(スカウトの加護。自分の判定をクリティカル)ですか。

4 ラウンド目。

相手の手番が来る前に倒してしまおうと、ジール・田中の《ツクヨミ》でフリーデの《フレイヤ》を復活させ、命中クリティカル扱いでシオンが攻撃。21点の〈斬〉ダメージを与えます。それでもバーサーカーは倒れず、攻撃を仕掛けてきます。

GM : 致命打を与えたあんにいきます。

シオン : どうぞ。俺ブレイクできますよー。

GM : (ころころ) 19といって命中。

シオン : ダイス目が10で回避か。(ころころ) 当たった、どうぞ。でも装甲低いんだよなー。

GM : 23の〈刺〉。
シオン : 20をくらって残り18〜。ここから一気に《猛攻》（ファイターLv1特技。ダメージに+1D6）といかないとやばいっすね。
GM :あ、しまった。これこそ《ネルガル》（ジャーヘッドの加護。攻撃対象をシーンに存在する任意数のキャラに変更）かければよかった。
シオン : じゃ、まず私から露払いいきますんで。
レキ : 露払いで終わるんじゃないかな。
フリーデ : とうか終わらせてください。
シオン : ここでブレイクしないとMP足りないかな.....ぎりぎり大丈夫だ。（ころころ）クリった！
クリス : おお、最後の最後に主人公らしくなったね。
GM : 《ヘルモード》（加護。シーン内のどこでも移動でき、防御をクリティカルに出来る）で逃げます。うち消すことができるならうち消してください。
レキ : うわ。
シオン : 《エーグル》（エージェントの加護。対象の判定をファンブルに変更させる）で防御判定を失敗にさせればいいんだ。
田中 : じゃ、《エーグル》使おう。逆に言うと、これで決めなきゃほんとに終わり。
GM : 通常対決ルールに戻り、その結果こちらが負けます。
シオン : いきまーす。（ころころ）低っ。
GM : これで決まらなかったら嘘。
フリーデ : そんなにギリギリだったの、さっきの数字？
シオン :21の〈斬〉。
GM : はい、おちた。崩れていきます。だってあと4点しかなかったんだもん。
クリス : おーっ。（全員拍手）
GM : ちなみにHPは200ありました。
シオン : おい！
レキ : あの《トール》（ファイターの加護。ダメージロールに+10D6）2枚で半分.....？（笑）

.....というわけで、全員の加護を余すところ無く使用して戦闘終了。
ちなみにバーサーカーのLvは15で、《再生能力》（クリーチャー特技。毎ラウンドクリーチャーLv点のHPが回復）は15点ずつだったそうです。

GM : ここでヴァルキリーが「いけない.....もう、抑えきれない.....！」と言って、はじき飛ばされます。彼女は水槽が割れて出てくるんじゃないなくて、水槽の中からすり抜けるようにはじき出されてきます。
フリーデ : それは受け止めようとする、みたいな感じで。
GM : あ、それはOKです。「今の攻撃型搭載機がこれから.....」と言うと、奥からガシャーンガシャーン。
シオン : 早く逃げよう！
GM : 「急いでください、こちらです」と別ルートが開いて、さっきの船の方に戻ることになります。
田中 : 船の方に行きますよ。
シオン : 今回、俺はしんがりになるんで。
GM : 彼女が手をかざすと、入り口みたいなのが開きます。
シオン : すごい、さすができる女。
フリーデ :申し訳ありませんね。（笑）

GM : 彼女が「皆さん、乗ってください。もう奈落の浸食を抑えることができません。よってミーティアを放棄し、このブラン・グリユで脱出します」これは独立した兵器なので、指輪で起動するわけじゃないです。攻撃型搭載機——赤いバーサーカーが、向こうから数体迫ってきます。

レキ : 「クリス、早く中へ」

クリス : 「はいっ」

シオン : (何かを匂わせる口調で)「ベルクさんも早くっ」(笑)

クリス : (含みのある言い方で)「ベルクさん.....ベルクさんは!？」(笑)

シオン : 「さっきまでここにいた筈なのに!？」(笑)

GM :マスターのセリフを食っているよ。

田中 : 「何だって、どこに!？」とか探します。

GM : 入り口の辺りにベルクがいますね。

シオン : (今後の展開を予想しつつ)「ベルクさん、早くこっちへ!」

GM : 一番近いバーサーカーが船に対して攻撃を仕掛けようとしたところを、ベルクは身を挺して受けます。攻撃が貫いて更にいこうとするところを、彼の最後の力を振り絞った《エーグル》(エージェントの加護。対象の判定をファンブルに変更させる)でミスに終わります。

田中 : 「ベルクー!」

シオン : 「ベルクさん、なんで!？」

クリス : 「ベルクさーん!」

GM : 「.....こんな俺をお前は仲間とってくれた。俺に出来ることはこれしかない。エレンを頼むー!」と言いながらざくざくと貫かれていくのが見えますね。

シオン : 「行きましょう、早く.....」

田中 : もうしょうがないよね、プレイヤー的には。しょーがねーや、もう死んじやったから。

クリス : ひでー!

シオン : ここで感動的なセリフを言えば全てクリア!

田中 : いや、「彼のやったことがムダにならないうちに」ってだけ言うに決まっているじゃないですか。ニンジャですから。

GM : ヴァルキリーが言いますね。「皆さん、しっかり捕まってください。飛び立ちます!」そうすると、どういう動力なのかわかりませんがものすごい力で上昇していきます。

クリス : Gがかかる、Gが。

GM : ベルクの姿がだんだん小さくなっていきます。

田中 : 「ベルク、すまん」

GM : ジール・ベルクは最期に「さらば」と言いますね。「エレン、こんな俺を許してくれ.....」

田中 : もう何も言わないですよ。

クリス : みんなしーんと。

GM : というところでシーンを終わります。

クリス :いやー、回復しておいたかいがあつたねー。(笑)

田中 : 役に立ってくれたねー、我々のために。

GM : 鬼だ、鬼がいる。

【エンディングフェイズ】

SCENE 1 シーンプレイヤー：シオン

- GM** : あの後無事にホワイトスネイクに戻ることができて、ブラン・グリユの格納庫の中ですね。君はアームドギアを整備しています。
- レキ** : 毎回整備シーンがある。
- フリーデ** : そしてこのシーンでは誰かがわいてくるという。
- GM** : 何か想いをはせることでもありますか？
- シオン** : 整備しながら独り言のように「卑怯ですよ、ベルクさん……。あなたを憎むことができなないじゃないですか」
- 全員** : おおーっ。
- 田中** : 最初から予定していたくせに。(笑)
- シオン** : しーっ。それは、プレイヤー。
- GM** : 登場判定はクリスさんだけ6ぐらいで、あとは12ぐらいで。(笑)
- クリス** : それは出れってことか！ (ころころ) じゃ、そのセリフの後にかつーんと靴音がしますね。
- シオン** : 「クリス……かい？」
- クリス** : 「うん」って感じで。……何て言えばいいのかね。
- シオン** : じゃ、こっちから切り出してあげよう。「今回も、帰って来れたね」
- クリス** : 「うん。……みんな一緒に帰って来れたらよかったのに。ベルクさん……悪い人じゃなかったよね」
- シオン** : 「そうだね。一生懸命生きていた人だったね」
- クリス** : 「こんな戦い……なくなってしまう方がいいのに」
- シオン** : 「なくなってしまうんじゃないよ。なくさなきゃいけないんだよ」
- クリス** : おおおーっ。
- 田中** : ヒーローっぼいなー。
- シオン** : ヒーロー回路入れていますから、今回は。
- クリス** : 「うん、そうだね」
- シオン** : 「でもクリス。君はこれからもっと大変な目に遭うよ」
- クリス** : 「平気。みんながいるから」
- シオン** : 「そうだね。僕も手伝うよ」
- クリス** : 「ありがとう。……信じてる」
- シオン** : 「大丈夫。僕が君を守る盾になり、剣になるよ」
- 全員** : ……。(←場面を壊さないよう全力で笑いを我慢ちゅう)
- GM** : アームドギアが答えるようにきらんと光りました。ここでシーンを切ろうかな、と思ったんですが……そんな君たちを影で見つめて、そのまま去る足音があったと思ってください。
- シオン** : 了解～。
- GM** : それが誰だったかはわかりませんがねー。
- クリス** : あ。か、勝った……！(笑)

SCENE 2 シーンプレイヤー：ジール・田中

- GM** : ジールさん、あなたはすべきことがありましたよね？
- 田中** : そういえばあったっけかなー。エレンに報告をしなければならいんだよね。
- GM** : エレンもG=M社の君の同僚ですね。君が訪れたことを知ると、彼女は笑顔で君を迎えてくれます。
- 田中** : どう言えばいいんだろうねー。
- GM** : 「お疲れさま。任務は無事成功したのね。ところでベルクはどこ？」
- 田中** : 暗い顔をして「彼は……」……なんかもらったアイテムとかないのかなー、あればいいのに。えーと、「彼は……」としか言わないで暗くなっておくことによって察してもらおうか。
- GM** : 表情が変わりますね。「え？」と言った後でうつむき加減になりながら「そう……そうなのね」
- 田中** : 「すまない。俺がいたというのに」
- GM** : さすがに辛さに耐えかねて、彼女の瞳からは一筋の涙が流れます。ですが崩れるようなことは見せません。彼女は基本的に男性と同等の立場で生きてきました。だから弱みを見せたくないんでしょう。君の表情を見て彼女は「ありがとう……」と言いますね。「あなたが悪いんじゃないわ」
- 田中** : もう1回「すまない」って言って去るしかないよね。
- GM** : そうすると、去る前に「あなただけでも生きて帰ってきてくれてよかったわ。ジールがあなたの命を救ったと考えれば。それに、任務は成功したんでしょう。あの人も立派に仕事を果たしたのだから。それにね……こんな状況なんだけど、私なら大丈夫よ。彼が遺してくれた子がいるから」と、腹の辺りをさすります。
- クリス** : おおっ。
- 田中** : 「彼は最後まで立派なエージェントだったよ」と言って去ります。
- フリーデ** : ちなみに、G=M社への報告は、彼のことはナイショ？
- 田中** : え、だって立派に最後まで……。何か問題でも？（笑）
- フリーデ** : いや、途中で人質を取った話とかね。
- 田中** : そんなのないですよ。彼は立派に我々のために、予定通りに。（笑）
- クリス** : 予定通りとか言うなー！
- GM** : あんたら鬼だー！
- 田中** : それは絶対書かないと思うし、書く必要もないし。
- シオン** : パトリック・ウォンはヨルムンガンド社との関わりを知ってこの任務に出したような気もするしね。
- GM** : 彼女の背中は寂しそうだったけど、この子のためにも強く生きていこうという意味は感じ取れます。
- クリス** : 泣かせてやれー。
- 田中** : いや、もう去っていくんで。ニンジャですから！

SCENE 3 シーンプレイヤー：クリス

クリス : さ、勝利者の私に何か用かな？（笑）

GM : あなたはブラン・グリユの制御システムであるヴァルキリーのところに行きますかね。行けるのであればいろいろ情報が聞けるといのもありますし。

クリス : 導かれるように行きます。ヴァルキリーはどんな状態？ 組み込まれている感じ、それとも単独で歩いているような。

GM : 歩けてはいますね。

クリス : 呼びかけようとして名前を知らないことに気がつきます。「あ……」って感じで。「そういえば、あなたのお名前、聞いていませんでしたね」

GM : そうすると、無機質ながら軽い笑みを浮かべて「レーネといいます」

シオン : 通称2Kさん。

GM : 「何か用ですか？ あなたは王家の血を引く者ですからね。何か知りたいことがあればどうぞ」

クリス : 「本当に王家の者なのかしら。今回のことはみんなこの指輪がやってくれたことで……」

GM : 「いえ、わたしの観察するところでは、あなたは確かに王家の血を引いておいでです。その指輪は遺跡ミーティアの起動キーにはなっていますが、2つの起動キーと王家の血がなければ遺跡は動かすことはできません」

クリス : うお、DNA組み込みか。

GM : 「そして、あなたはその血を引く正当な第一後継者であるとわたしは認識しました」第一後継者という時点であなたにはふとした疑問がよぎるね。兄がいるのに何故第一後継者？

クリス : ——おお！

田中 : いたねえ、そんなのね。

レキ : 今まじで忘れてた？

クリス : こないだの話だと、確か乳母の息子じゃなかったっけ。

田中 : じゃないか、と言われているだけで実際は……でも自分では兄さんだと思ったんですよ。

クリス : じゃ、「第一？ でも私には兄がいたのでは」と。

GM : レーネはきよとんとした表情を浮かべますね。「兄……ですか？ あなたに兄弟などおりませんよ。あなたは間違いなくウェストリ王国第一位王位継承者であり、それ以上王位継承権が高い者など存在しません」

クリス : がーん。「それでは……私の知っているあの兄は一体」って感じで。

GM : 「わたしへの質問は以上でしょうか？」

クリス : うーん、まだ何かあるような気がするけどなあ。とりあえず次回にとっておくか。

GM : 「では、わたしはこの船の細かなチェックがまだ終わっていないので、また」と去っていきます。

クリス : おっけー。……どうしよう、暗転のタイミングが。とりあえず「兄さん、あなたは一体誰？」って感じで終わります。

GM : そうすると最後にシャードが語りかけてきますね。『その者はそう遠くない未来に再会するだろう』

SCENE 4 シーンプレイヤー：フリーデ

GM : あなたは自分の過去に興味というか.....。

フリーデ : そうですね、教えてもらえるのであればレーネに聞きたいと思います。

GM : そうしますと、管制室みたいところに彼女がいます。

フリーデ : 「失礼します。今いいですか」

GM : 「ええ。何でしょうか。あなたの過去が聞きたいの？」って感じで。

フリーデ : 「破損した記憶についての情報を教えていただければと」

GM : 「そうですね。あなたにこれからのことについて知っておいてもらわなければいけないことがあります」と語り出します。あなたは彼女と同型機であると同時に性能も同型です。つまりミーティアの制御系の半分の力を司っていたと。

シオン : それなのにOSがMeだったばかりに。

GM : 半分といってももう何体かヴァルキリーはいて、話を聞くともう1～2機はあるという話ですが、その中の一部であるあなたの制御が十数年前の事件の時に欠損してしまい、暴走し始めた。暴走したところが奈落につけ込まれ浸食され、今回の事件を引き起こした原因の一端となっていると説明します。「あなたが何らかの理由で壊れたのかは、わたしにはわかりません。今までどうしていたのですが？」

フリーデ : 「わたしが再起動したのは今から約2年前です」と内容をぎつと話します。そうしながら今の話を自分の中で検索をかけて、該当データが出てこないか確認します。

シオン : だめです、検索ばかりかけると暴走します！

GM : 一応検索はかけますがやはりメモリが欠損している部分もあり、完全にかけることは不可能です。ただ、自分のメモリの片隅にそういうものがあつたみたいなものは引っかかるみたいな形で。本来の機能が完全に回復するほどのデータ補完とか修復はできないです。

フリーデ : 「その話を聞いても該当するものはありません」

GM : そうすると「それでもあなたが無事でいたことは私にとって嬉しいです」と。

フリーデ : 「わたしは今の状態で何かできるでしょうか」

GM : 「いずれもミーティアの制御の再開をしてもらいたいです、わたしとともに」

フリーデ : 「わかりました」と言ってからちよつと考えて「レーネ、わたしの記憶が完全に戻った場合、わたしの行動の優先順位はバーサーカーの制御ということになるのでしょうか」と聞きます。

GM : 「少なくともミーティアの制御が優先順位の第一位に占めると思います」

フリーデ : そう言われるとしばらく考えて、「わたしは、しばらく記憶は戻らない方がいい.....」と。

クリス : おおっ。

田中 : でも途中で戻ったりするもんなんだよなー。

GM : 「そうですね.....。でもメモリが完全に再修復するまでまだ時間はかかりますし、結論を急ぐことはないでしょう。まだミーティアも奈落に浸食されて正常可動に至ることはできませんし、今はわたしもこの船を制御することしかできません」

フリーデ : うん.....。えーと、じゃ「レーネ、わたしには、記憶の欠損以外にも故障箇所があるのかもしれませんが。自分の第一優先タスクがあるらしいにもかかわらず、わたしの中のその部分には既に違うものが占めているようです」とは言っておきます。

クリス : やっぱり2年、少年の成長をみてくるとねー。

GM : 「そうですね。それならばそれで構わないと思います」

フリーデ : 「そうなんですか？」と意外そうに聞き返しますが。

GM : 「今はそれを晴らす時ではないような気がします。いずれ再補完が完成した暁にはわたしの言っている意味もわかります」いかにミーティアの制御が大切なのかとか。「今

は急ぎません。ゆっくりメモリの再修復につとめて下さい」

フリーデ：「わかりました。何か進展がありましたら伝えます」と話を終わらせて部屋から出て、もう一回自分の中で検索をかけようとして――やめます。

GM : はい。

SCENE 5 シーンプレイヤー：レキ・ストランド

- レキ : どうしようかなあ。とりあえず船内を見回していく感じで、最後に格納庫へ。
- GM : 格納庫に向かうんですね。そうしますと、ちょっと小走りでどーんと当たる感じで。ちょっと体制を崩して。
- レキ : 「あっ。大丈夫ですか？」って感じで手を出す。
- GM : その人物はソフィー・ウィルマーですね。
- クリス : はっはっはっは。 (勝ち誇り)
- 田中 : でも、ここで負け犬のレベルが上がるかもしれないですよ。舐めたらあかんですよ。
- クリス : しまった、あまり高笑いしている場合じゃなかった。
- レキ : 「ソフィーさん、あまり走り回らない方が」
- GM : 「いえ……はい、わかりました」って。
- レキ : ちょっと顔の様子を見ますね。
- GM : そうですね、なーんていったらいいのかな。鼻の辺りが赤いですね。普通ではないですね。
- クリス : ふっはっはっは。
- シオン : ここに勝利者が……。
- クリス : いやいやいや、そんなことないですよ。
- レキ : 「風邪でも引きましたか？」
- GM : 「そんなことないです。ちょっと疲れちゃって……」みたいな。
- レキ : 「そういえばソフィーさん。シオン君はどこかで見かけませんでしたか」
- フリーデ : さりげに塩を塗り込みー。
- レキ : それは知らないから。
- GM : 「シオンさんですか？ シオンさんなら格納庫で見ましたよ」
- レキ : 「ありがとう。走らないように気をつけてくださいね」
- GM : 「はいっ」って小走りで去っていく。(笑)
- シオン : ドジっ子属性もつけやがった。
- レキ : 格納庫に向かいます。ちょっと不審に思いながら。
- GM : そうすると、楽しそうに談笑している2人がいますね。
- シオン : 「クリス、それ取って」とか言って。
- クリス : 「はい」って感じで。「これかしら？」
- レキ : ……入りづれー。
- 田中 : この83的展開は許せない。(by『機動戦士ガンダム0083 ジオンの残光』)
- クリス : さ、どんとこい。
- レキ : 上の方にいる感じで「シオン！」
- シオン : 「あ、どうしたんですレキさん？ 今そっちに行きますね。――じゃ、クリス、また後で」
- クリス : 「うんっ。また後でねっ♡」
- メイドさん : ひでーな、女は。
- レキ : やっぱり言わなきゃいけないのか。――「邪魔だったかな？」(笑)
- シオン : 「そうですね、もうちょっとで作業は終わるところだったんですが」
- レキ : 「そういうわけじゃないんだが、まあ、いい」
- シオン : 「何か？」
- レキ : 「いや、今回のアームドギアの活躍がね、予想以上のものだったから」
- シオン : 「何言っているんですか、みんなレキさんの太刀筋を見せてもらったからじゃないですか」

田中 : もういじめましょう、もう。俺も出ていいですか？

GM : 登場判定したければどうぞ。難易度はそうですね、普通なんで10くらいで。

田中 : (ころころ) 出ました。

GM : じゃ、彼女との再会と報告を果たしてちょっと重い気持ちで帰ってきたらそんな感じ
です。

クリス : 「あ、田中さーん」って感じで。

田中 : なんかいりいろ話しているんだよね。

レキ : 戦闘に関してなんだかんだという感じで。

田中 : あ、そういう感じなんだ。

シオン : 「今回もいろいろとすごいですね、田中さん、生身で」生身で、って感じて。「あんな
なところに隠れるんですねー」

GM : まあ確かに、隠れるところなんかなかったけど。

田中 : 入りづらくなっちゃったな。「よかったのか、レキ？」とかって、とりあえず「おい
レキ、邪魔したんじゃないか」みたいな感じで。

レキ : んー、ちょっとね。

シオン : もうちょっとで追われるところだったんですけどね。

田中 : レキに言います。「シオンも男だってことだよ」

シオン : 「男だってことで思い出したんですが、田中さん。あのコソっとしたものの、なんで僕
の部屋にあったんですか」

田中 : 「.....何のことかな？」とすごい余裕で、なぜかマスターキーをちやらちやらさせな
がら。実はもう忍び込んで返してきたという。

シオン : え、じゃあ枕の下に隠してきたコソっとしたものの、また私の部屋にあるんでしょうか
。

フリーデ : わたし出ていいですか？

GM : 10でお願いします。

フリーデ : (ころころ) ちょうど出れるかな。格納庫のちょっと上から(手に持ったものをひら
ひらさせつつ)「シオン様。これをベッドの下で見つけたのですが.....」(笑)

シオン : あの.....《ヘルモード》(加護。シーン内のどこでも移動でき、防御をクリティカル
に出来る)をイベント仕様で。(笑)

田中 : 「さっきも話していたのだが、彼も大人になったということだよ」

フリーデ : 「そうなのですか。よく使うものなら、手に届くところに移しておいた方がよいの
でしょうか」(笑)

レキ : 取り上げて隠しましょう。「まだ整備が残っていることだしな。しばらく預かってお
こう」

シオン : 「あ、レキさんそれは！」

GM : なごやかにごまかしつつフェイドアウトしましょう。

シオン :俺、今回頑張ったのに、最後はいたぶられ？

全員 : おつかれさまでしたー。